

政治・選挙に関するアンケート調査
報告書

令和6（2024）年3月

目次

I 調査の概要	-----	1
II 回収結果	-----	2
III アンケートの回答の概要	-----	3
IV 考察	-----	40
おわりに	-----	42
資料（調査票）	-----	43

I 調査の概要

1. 目的

選挙啓発や主権者教育の取り組みの参考にするため、投票率の特に低い「若年層（18-39歳）」と、それ以外の「一般層（40歳以上）」のそれぞれから無作為抽出した金沢市の有権者を対象とする政治や選挙に関する意識や行動についてのアンケート調査を実施した。

2. 調査方法

令和5（2023）年6月1日現在の金沢市選挙人名簿登載者374,589人について、若年層（18-39歳；101,019人）と一般層（40歳以上；273,570人）に分けた上で、低回収率が予想される若年層から1,500人、一般層から1,000人をそれぞれ無作為に抽出した計2,500人の対象者に9月11日に調査票を郵送し、記入済みの調査票を返送するか、二次元コードでWeb回答フォーマットにアクセスして回答するかのどちらかの手段により、無記名での回答を依頼した。回答期限は10月2日とし、集計にあたっては10月末日到達分までを対象とした。

3. 調査・分析

金沢大学法学類教授 岡田 浩（投票行動論研究室）

Ⅱ 回収結果

回収の結果は、白紙を除く有効回収数は929（うち、若年層は427、一般層は485、年齢無回答は17）、白紙を除く有効回収率は37.2%であった。

[表1]は、年齢層別の送付数、回収数（Web・郵送）、回収率、構成比である。

[表2]は、抽出時の選挙人名簿登載者数と構成比である。

年齢層によってサンプル数や回収率が異なることから、アンケート回答者の年齢構成は実際の年齢構成との間にずれがあることに注意が必要である。

[表1]

	送付数	Web回答	郵送回答	Web+郵送	回収率	構成比
18-19歳	137	14	9	23	16.8%	2.5%
20代	658	99	79	178	27.1%	19.2%
30代	705	132	94	226	32.1%	24.3%
40歳未満小計	1500	245	182	427	28.5%	46.0%
40代	248	41	63	104	41.9%	11.2%
50代	242	39	75	114	47.1%	12.3%
60代	175	16	75	91	52.0%	9.8%
70歳以上	335	10	166	176	52.5%	18.9%
40歳以上小計	1000	106	379	485	48.5%	52.2%
年齢無回答			17	17		1.8%
合計	2500	351	578	929	37.2%	100.0%

[表2]

	選挙人名簿登載者数	構成比
18-19歳	8,669	2.3%
20代	45,496	12.1%
30代	46,697	12.5%
40代	62,528	16.7%
50代	63,049	16.8%
60代	51,016	13.6%
70歳以上	97,134	25.9%
合計	374,589	100.0%

Ⅲ アンケートの回答の概要

ここでは、アンケートの各設問について、18歳から39歳までの「若年層」と、40歳以上の「一般層」と、「全体（年齢が無回答の人も含む）」の3つのカテゴリー別に回答の比率をグラフにしたものを掲載する（必要に応じて10 - 20代のみでの回答の比率も表示している）。

投票した人にもしなかった人にも尋ねている[問5]以下の設問のうち、各回答項目について一定の回答数が確保できるものについては、回答項目別の投票参加率をグラフにしたものも併せて掲載している。

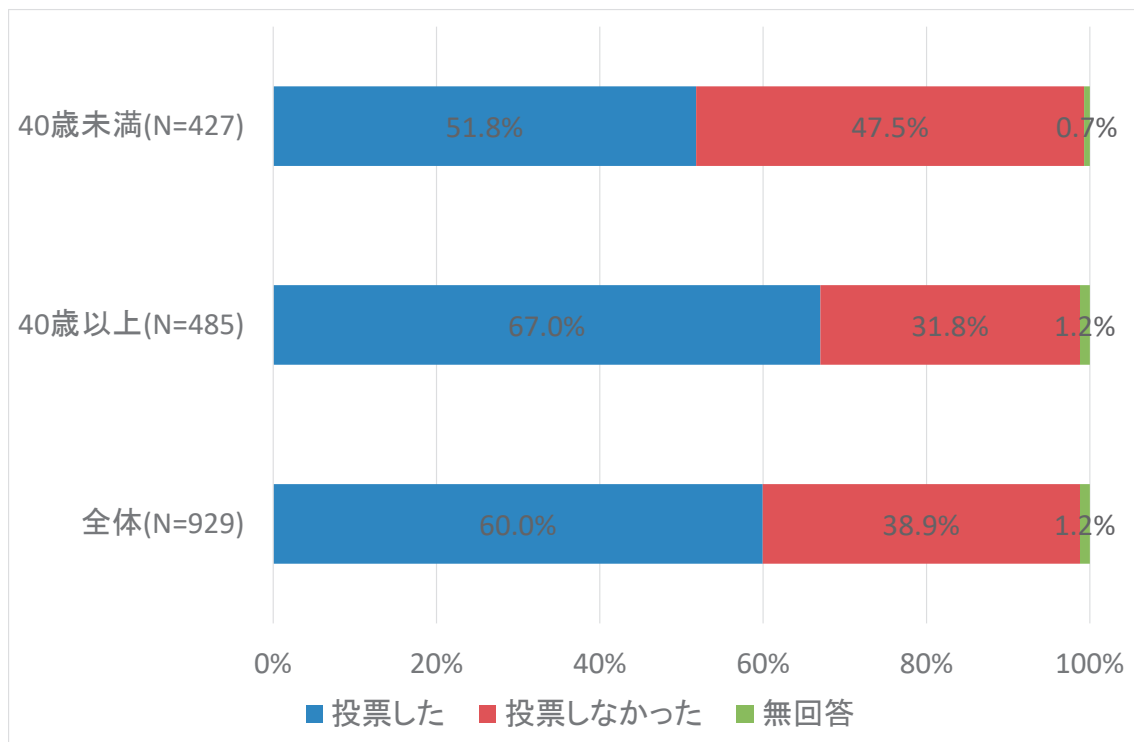
本調査報告書の留意点

※回答を1つのみ選択する単数回答の設問のパーセンテージの合計は100%になるが（小数点以下の端数の若干の影響を除く）、複数の回答を選択できる複数回答の設問は合計が100%を超える。

※グラフの各項目についている(N=〇〇)は、各項目について該当する回答数を示している。回答数が少ないものについては、誤差の影響が大きいことに注意が必要である。たとえば信頼度95%とすると、回答数400の場合は±5%以内、回答数100では±10%以内、回答数50では±14%以内の誤差が統計学的に想定される。

※スペースの関係で凡例の文字が一部しか表示されていないグラフもあるが、質問文や選択肢の詳細は巻末の調査票を参照されたい。

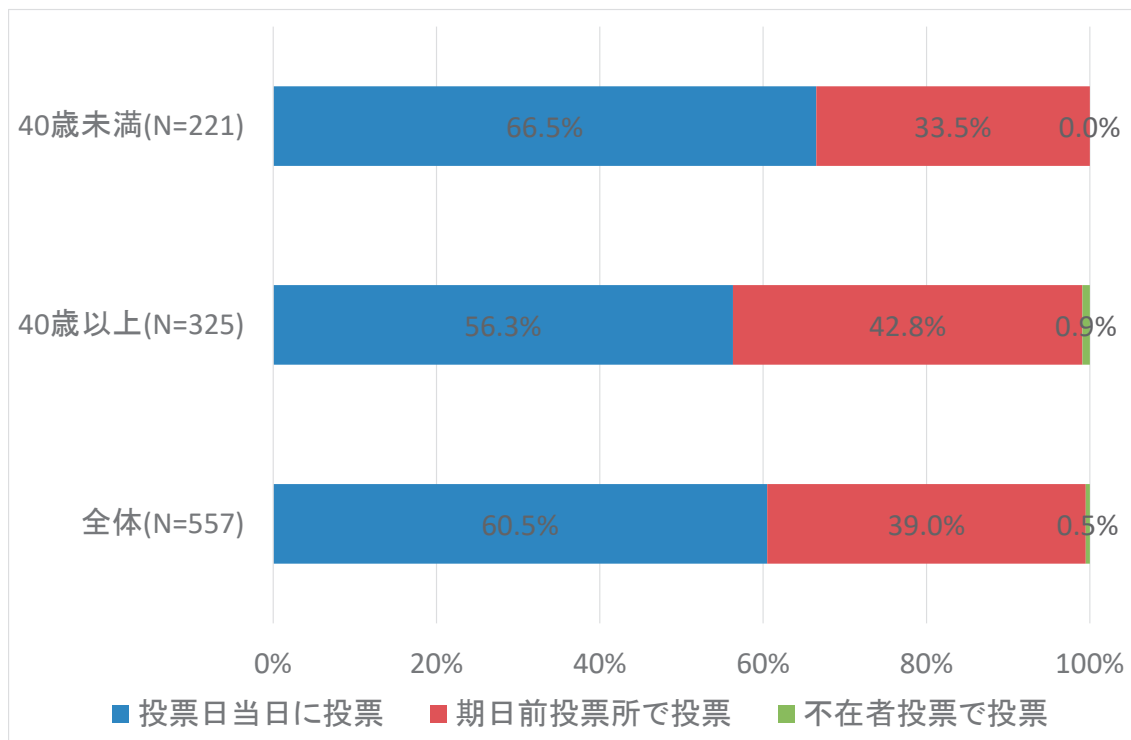
[問1] あなたは、今年4月23日に行われた金沢市議会議員選挙では投票しましたか。当てはまる番号を1つ選んでください。



令和5(2023)年4月23日に行われた金沢市議会議員選挙の実際の投票率は35.80%であったが、アンケートの回答者に選挙に関心のある人が多かったためか、いずれかの手段で「投票した」と回答した人(投票日当日+期日前投票+不在者投票)は60.0%で実際の投票率に比べてかなり多い。

40歳未満の「若年層」と40歳以上の「一般層」を比べると、若年層の投票参加率は一般層より15.2%ポイントも少ない。

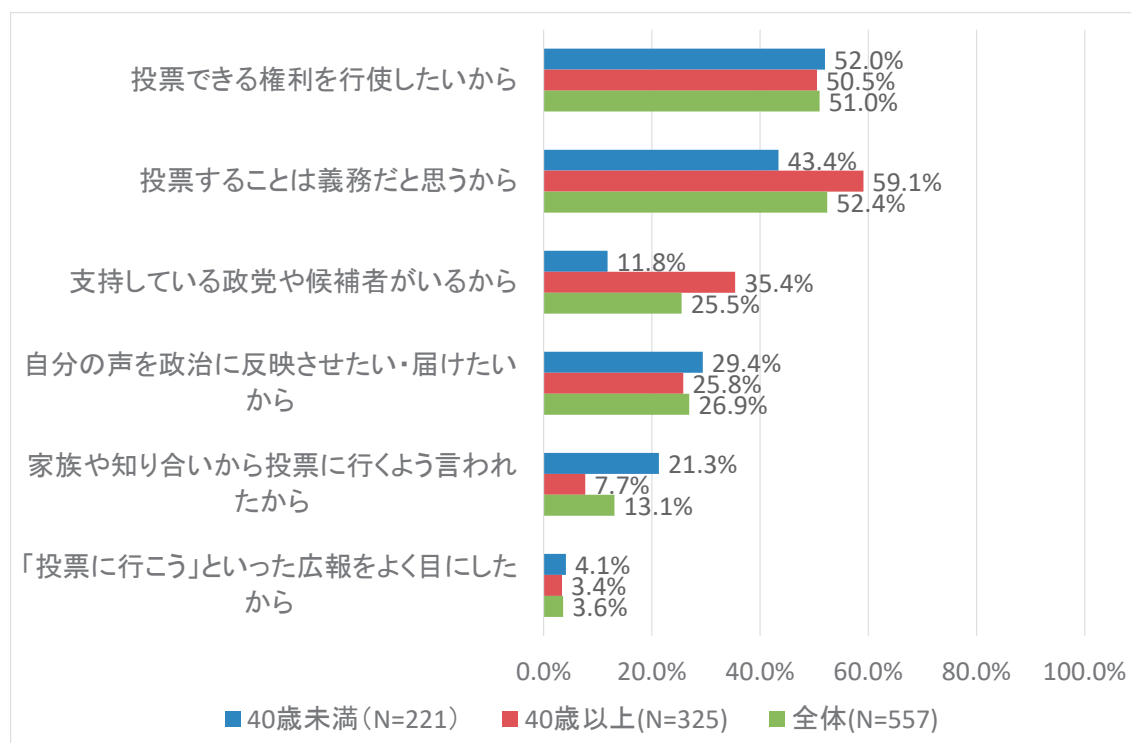
※[問 1]で「投票した」と回答した 557 人の方のみ抽出して集計した。



「投票した」と回答した人のみを抽出して、どのような手段で投票したかを集計したものが上のグラフであるが、若年層は一般層に比べて期日前投票の利用が 10%ポイント近くも少ない。

[問2] (※投票した方のみお答え下さい) 今回の金沢市議会議員選挙で投票した理由は、次のうちどれですか。当てはまる番号をすべて選んでください。

※[問1]で「投票した」と回答した557人の方のみ抽出して集計した。

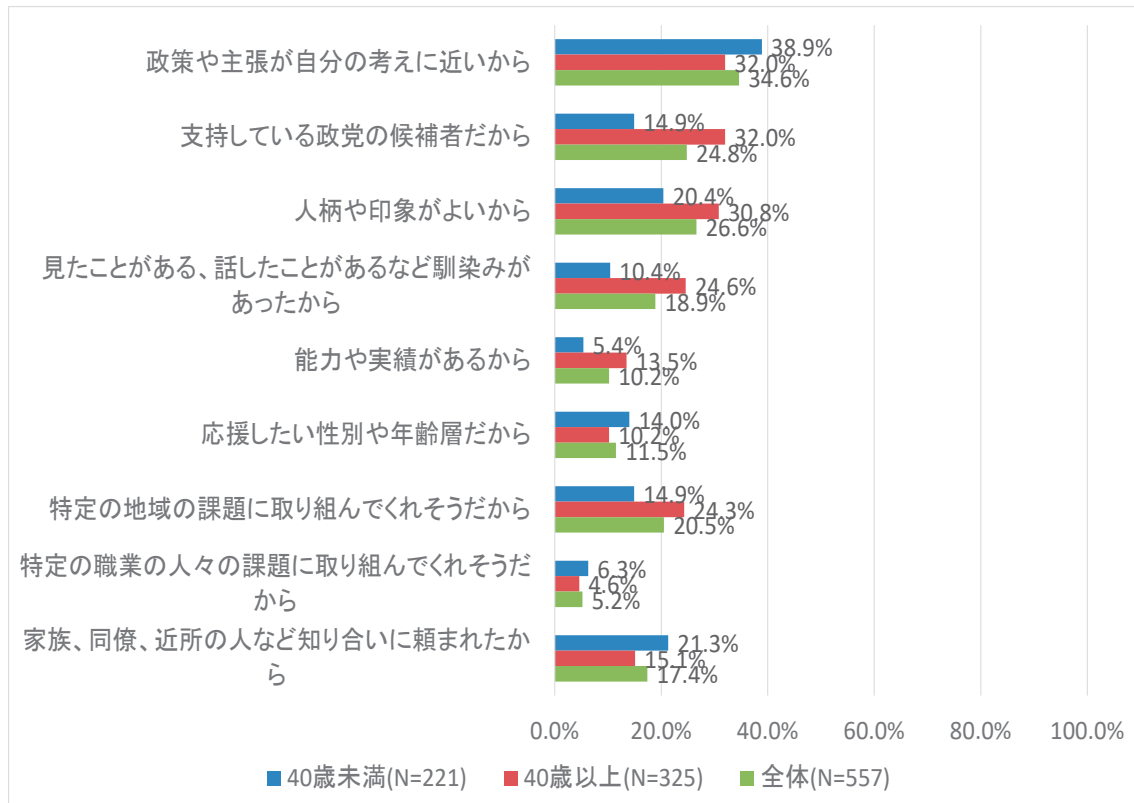


投票に行った理由については、全体では、「義務だと思う (52.4%)」と「権利を行使したい (51.0%)」が多い。

若年層と一般層を比べると、若年層は、「支持している政党や候補者がいる (-23.6%ポイント)」や「義務だと思う (-15.7%ポイント)」が顕著に少なく、一方、「家族や知り合いから言われた (+13.6%ポイント)」が顕著に多い。

[問3] (※投票した方のみお答え下さい) どの候補者に投票するかを決めた理由は、次のうちどれですか。当てはまる番号をすべて選んでください。

※[問1]で「投票した」と回答した557人の方のみ抽出して集計した。



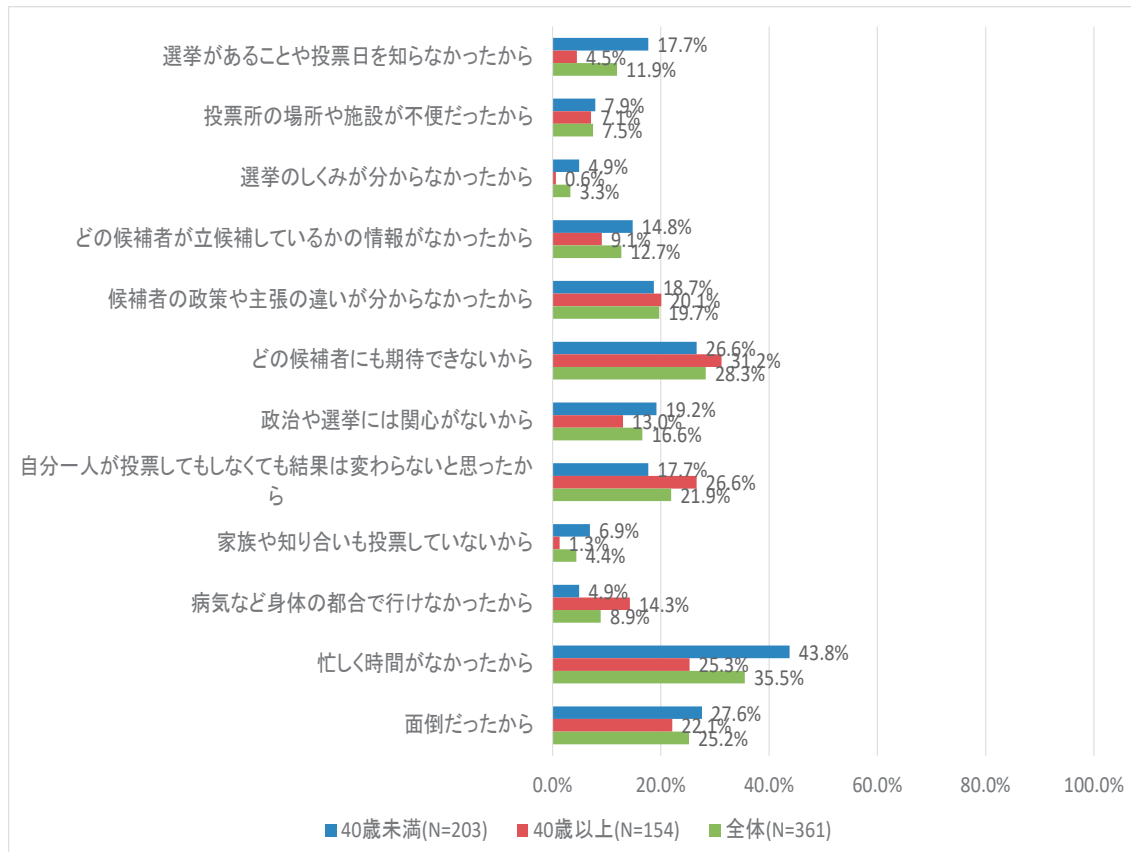
投票する候補者の決定理由については、全体では、「政策や主張が近い (34.6%)」「人柄や印象がよい (26.6%)」「支持している政党の候補者 (24.8%)」などが多い。

若年層と一般層を比べると、若年層は、「支持している政党の候補者 (-17.1%ポイント)」「馴染みがあった (-14.2%ポイント)」「人柄や印象がよい (-10.4%ポイント)」が少なく、「政策や主張が近い (+6.9%ポイント)」や「知り合いに頼まれた (+6.2%ポイント)」が多い。

若年層は、政党や候補者を支持する意識から投票するというよりは、選挙公報などでも比較的情報が得やすい政策・主張や、周りの人からの依頼を手掛かりに投票している人が多いようである。

[問4] (※投票しなかった方のみお答え下さい) 今回の金沢市議会議員選挙で投票しなかった理由は、次のうちどれですか。当てはまる番号をすべて選んでください。

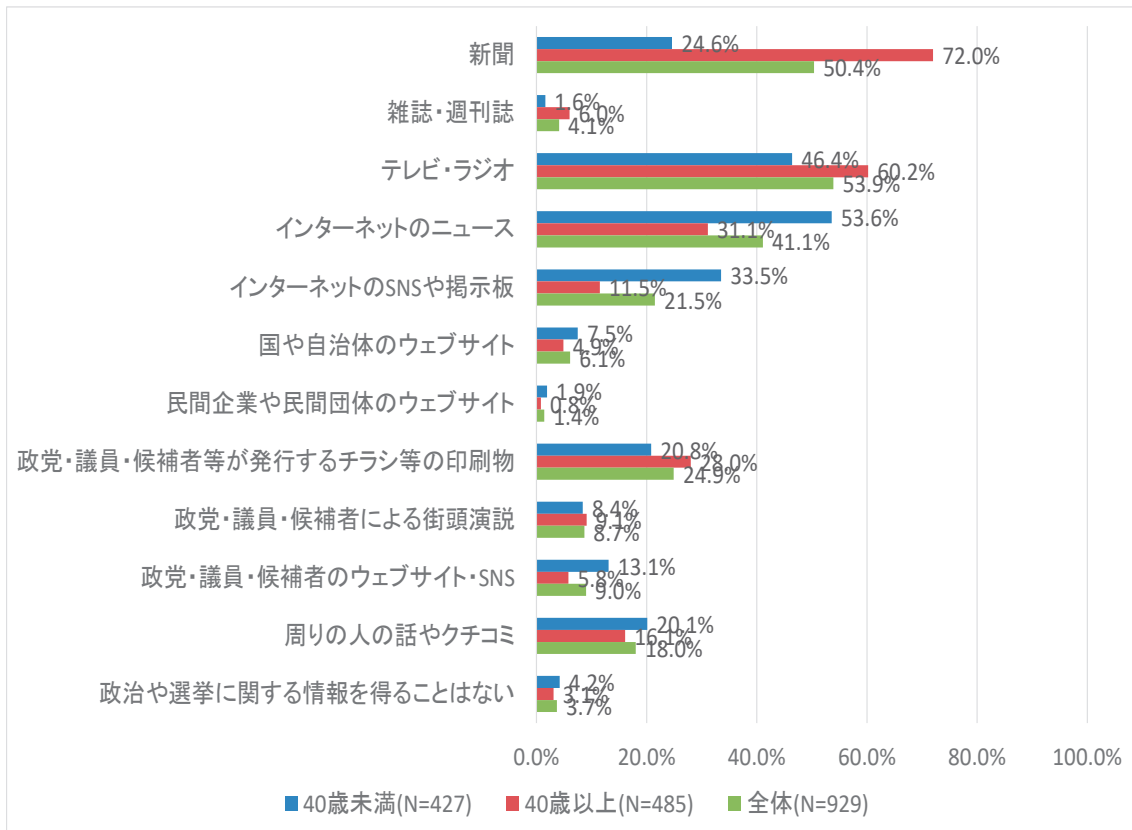
※[問1]で「投票しなかった」と回答した361人の方のみ抽出して集計した。



棄権理由については、全体では、「忙しく時間がなかった (35.5%)」「どの候補者にも期待できない (28.3%)」「面倒だった (25.2%)」「投票しても結果は変わらない (21.9%)」などが多い。一方で、「選挙のしくみが分からなかった (3.3%)」「家族や知り合いも投票していない (4.4%)」「投票所の場所や施設が不便だった (7.5%)」などは少ない。

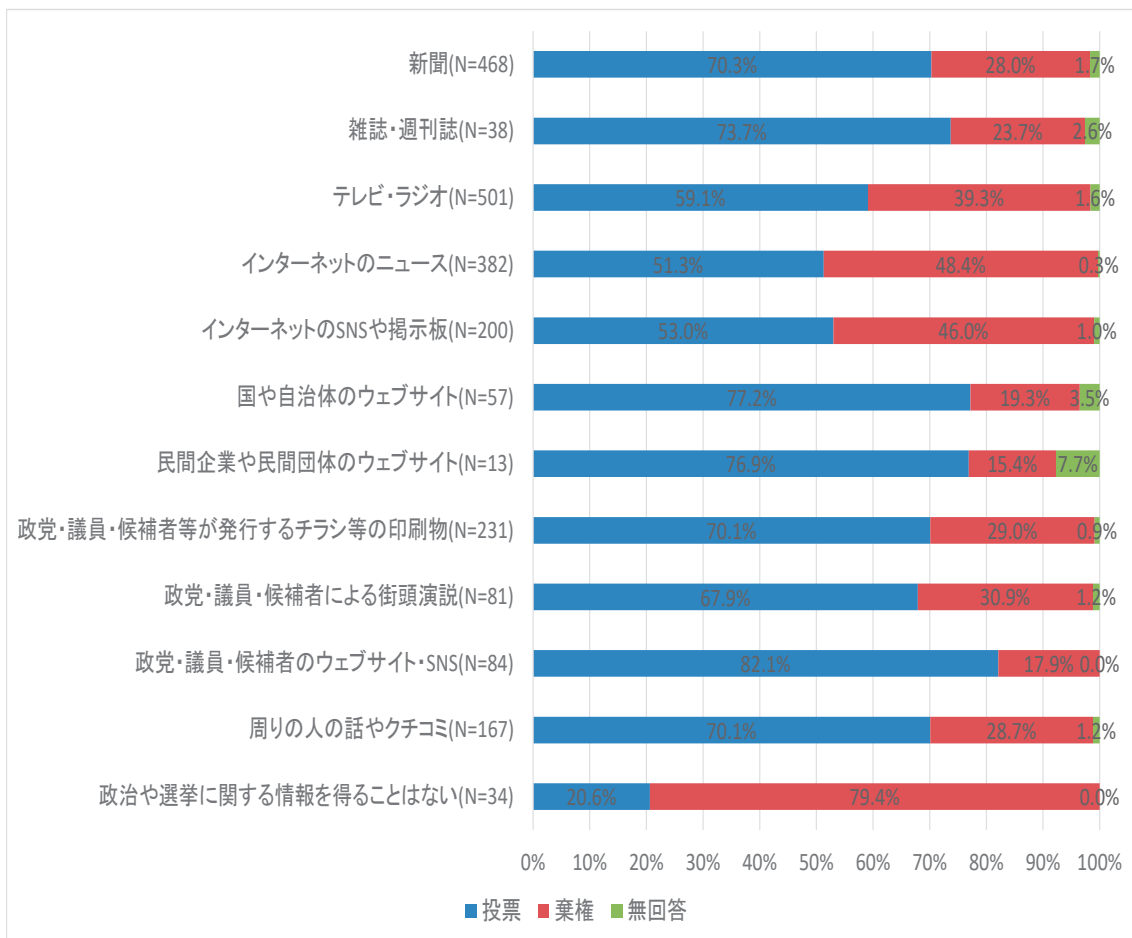
若年層と一般層を比べると、一般層が、「期待できない」「変わらない」といった、候補者など選挙の中身に対する失望が多いのに対して、若年層は、「忙しく時間がなかった (+18.5%ポイント)」や「面倒だった (+5.5%ポイント)」といった選挙自体に対する忌避を棄権理由として挙げる人が多い。また、「選挙があることや投票日を知らなかった (+13.2%ポイント)」や「どの候補者が立候補しているかの情報がなかった (+5.7%ポイント)」といった情報の無さを指摘する回答が、一般層に比べて顕著に多い。

〔問5〕あなたが、政治や選挙に関する情報を得るために普段利用している情報源は何ですか。当てはまる番号をすべて選んでください。



政治や選挙に関する普段の情報源については、全体では、「テレビ・ラジオ (53.9%)」「新聞 (50.4%)」「インターネットのニュース (41.1%)」などが多い。

若年層と一般層を比べると、若年層は、「新聞 (-47.4%ポイント)」や「テレビ・ラジオ (-13.8%ポイント)」といった従来型メディアを挙げる人が一般層に比べて顕著に少なく、「インターネットのニュース (+22.5%ポイント)」や「インターネットの SNS や掲示板 (+22.0%ポイント)」など、インターネットを情報源として挙げる人が顕著に多い。

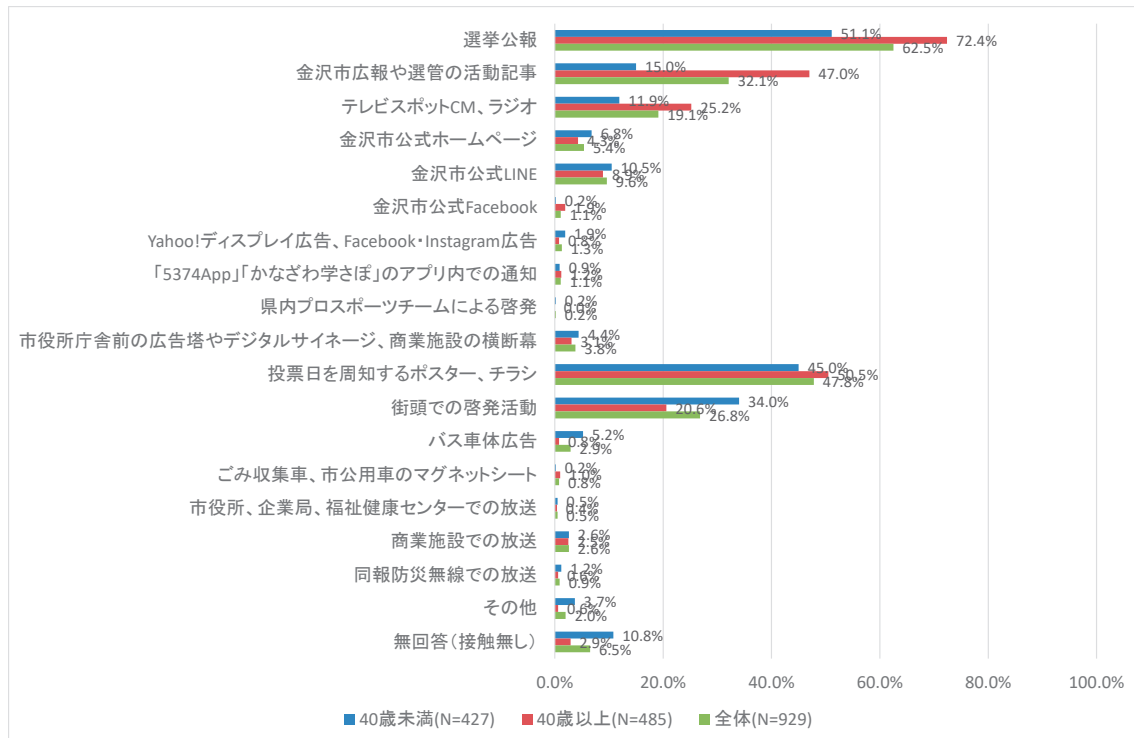


情報源別の投票参加率を示したものが上のグラフである。たとえば 10 人しか該当者がいないと 1 人の回答が違っただけで 10% も違ってくるように、該当者数が少ないカテゴリーは誤差の影響が大きいと考えられるため、ここでは該当者が 50 人以上のカテゴリーについて見る。

投票参加率が高いのは、「候補者等のウェブサイト・SNS」「国や自治体のウェブサイト」などであり、投票参加率が低いのは、「インターネットのニュース」「インターネットの SNS や掲示板」である。

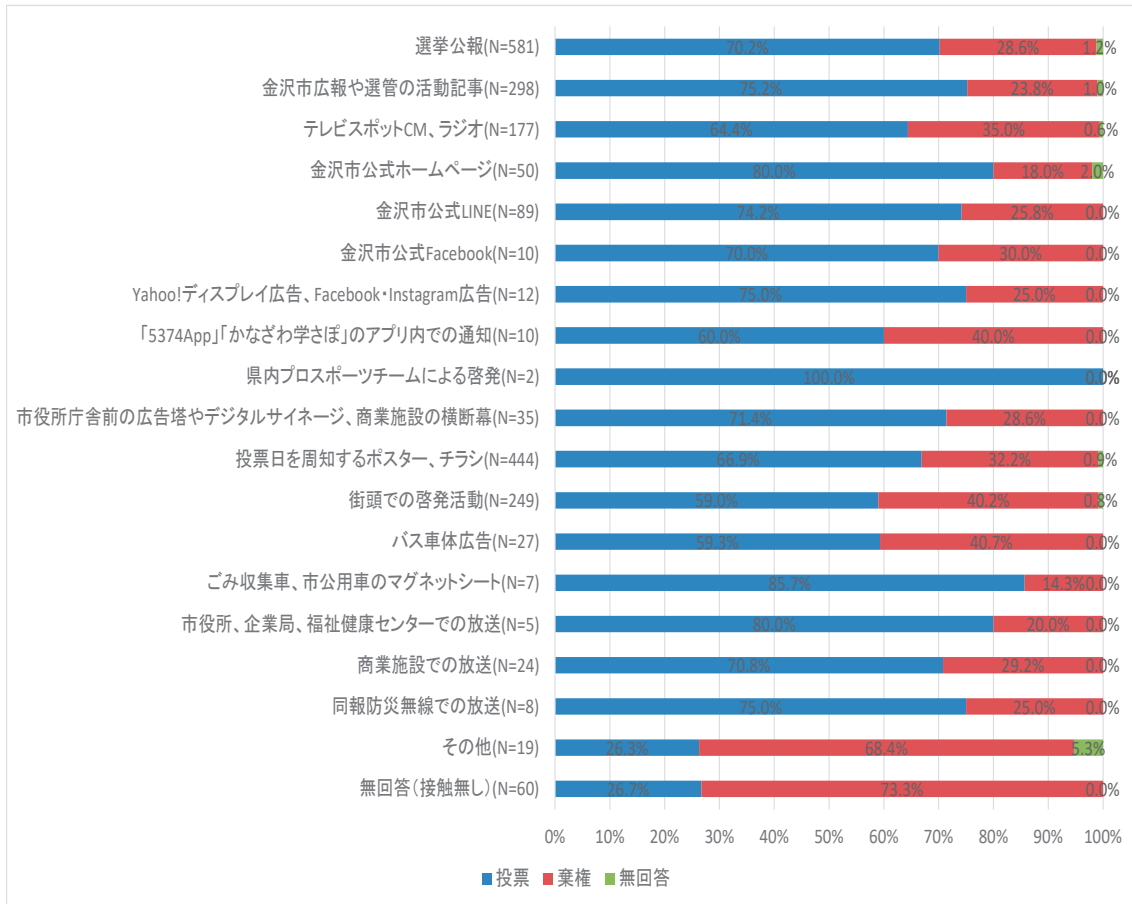
インターネットは自分の関心のある情報にアクセスする傾向が強い「能動的なメディア」と言われるが、候補者や自治体等のウェブサイトにアクセスするような、もともと政治や選挙に関心の高い人の投票参加率が高く、政治や選挙に必ずしも関係しないインターネットのニュースや SNS 等にアクセスする人の投票参加率が低くなっている可能性がある。しかし、候補者や自治体等のウェブサイトにアクセスして情報を得ることによって関心が高まり、投票参加につながっている可能性も否定できない。

〔問6〕 今回の金沢市議会議員選挙について、金沢市選挙管理委員会ではさまざまな方法で広報を行いました。以下のうち、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。当てはまる番号をすべて選んでください。



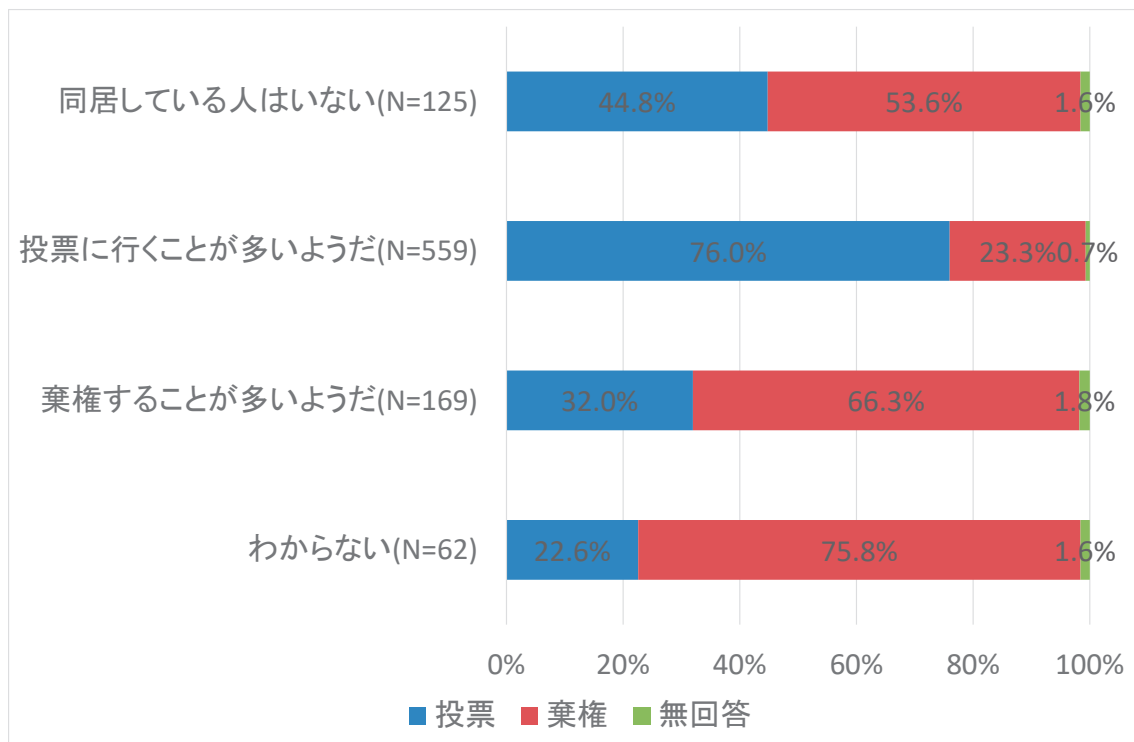
選挙管理委員会の広報への接触については、全体では、「選挙公報（62.5%）」「ポスター・チラシ（47.8%）」「金沢市広報や選管の活動記事（32.1%）」「街頭での啓発活動（26.8%）」「テレビスポットCM、ラジオ（19.1%）」などが多い。

若年層と一般層を比べると、若年層は一般層に比べて全体的に接触が少ないが、通勤や通学で街中に出る機会が多いためか、「ポスター、チラシ（-5.5%ポイント）」や「街頭での啓発活動（+13.4%ポイント）」については比較的多い。また、新聞に掲載される「金沢市広報や選管の活動記事（-32.0%ポイント）」や「選挙公報（-21.3%ポイント）」といった紙媒体や、「テレビ・ラジオ（-13.3%ポイント）」といった従来型のメディアへの接触が一般層に比べて顕著に少ない一方で、「金沢市公式ホームページ（+2.5%ポイント）」や「金沢市公式LINE（+1.6%ポイント）」は一般層を上回っている。

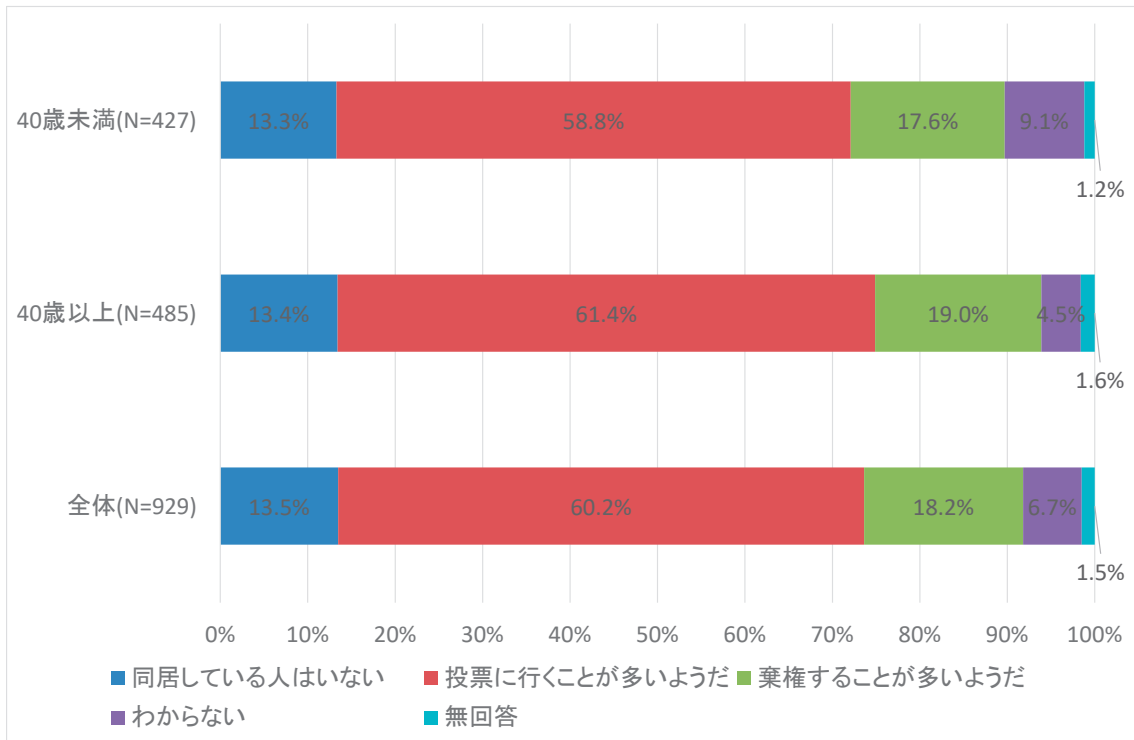


選挙管理委員会の広報への接触別の投票参加率を示したものが上のグラフである。誤差の影響が比較的少ないと考えられる該当者が50人以上のものについて見ると、いずれにも接触したと回答しなかった「無回答」が投票参加率が顕著に低いことがまず確認できる。投票参加率が高いのは、「金沢市公式ホームページ(80.0%)」「金沢市広報や選管の活動記事(75.2%)」「金沢市公式LINE(74.2%)」などである。これも、[問5]と同様に、自治体のホームページ等にアクセスするような、もともと政治や選挙に関心の高い人の投票参加率が高いことの影響が考えられるが、これらにアクセスして情報を得ることによって関心が高まり、投票参加につながっている可能性も否定できない。

[問7] ご家族など同居している方は投票に行っていますか。当てはまる番号を1つ選んでください。



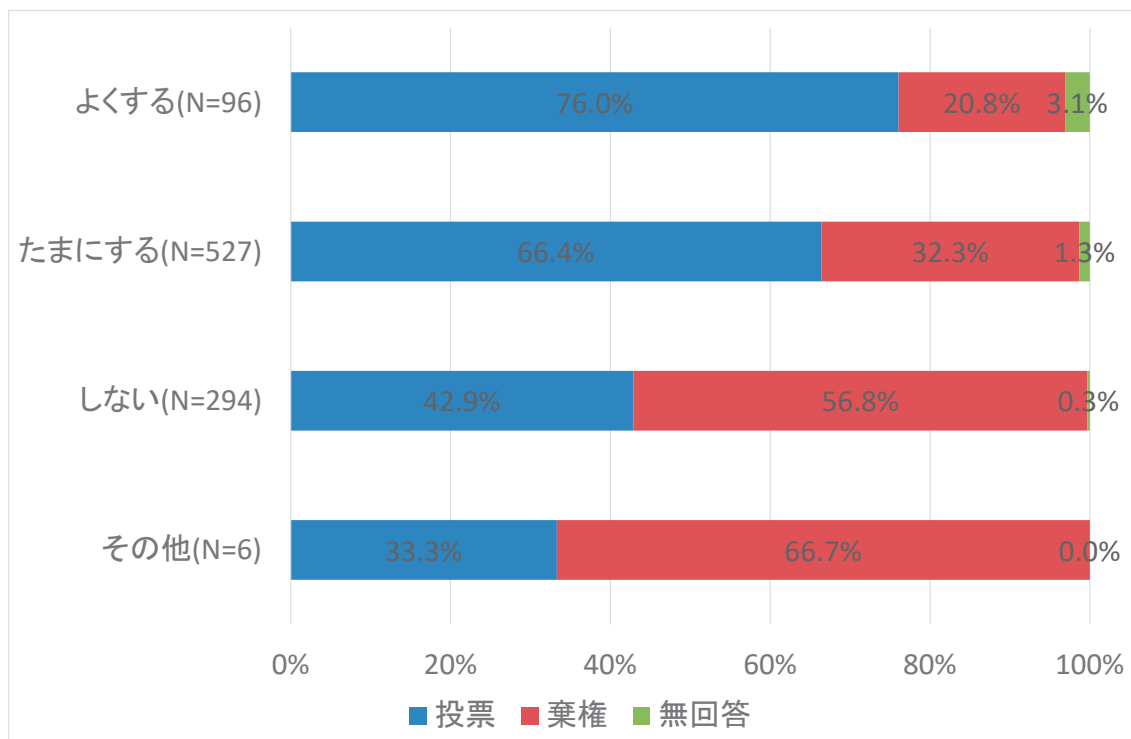
家族など同居者の投票参加状況別の投票参加率を示したものが上のグラフである。同居者が投票に行っているか棄権しているかによって、投票参加率に 44.0%ポイントもの差がついており、周りの人の影響が大きいことが分かる。



家族など同居者の投票参加状況について、若年層では「わからない」という回答が少し多くなるが、それでも8割近くの人が、同居者がおり、かつ同居者の投票参加状況について把握していると回答している。

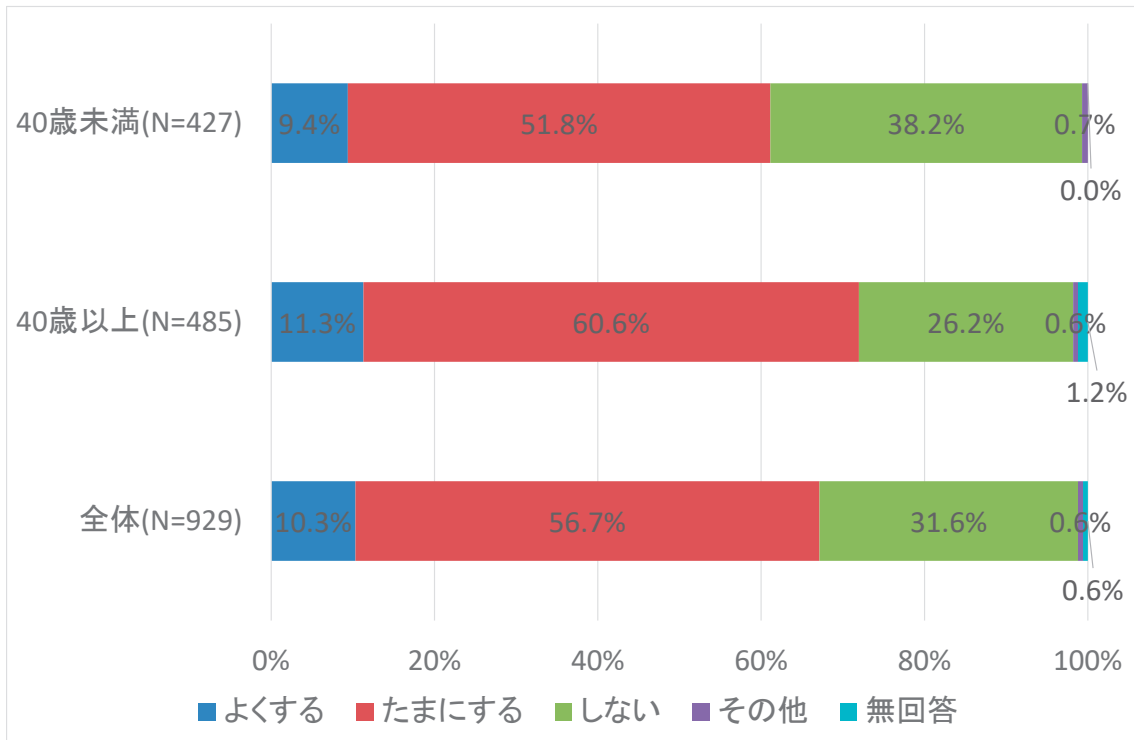
[問8] あなたは、政治や選挙、あるいは地域の課題やまちづくりなどの話題について、まわりの人と話をすることがありますか。それぞれの項目ごとに当てはまる番号を1つずつ選んでください。

家族・親戚との会話



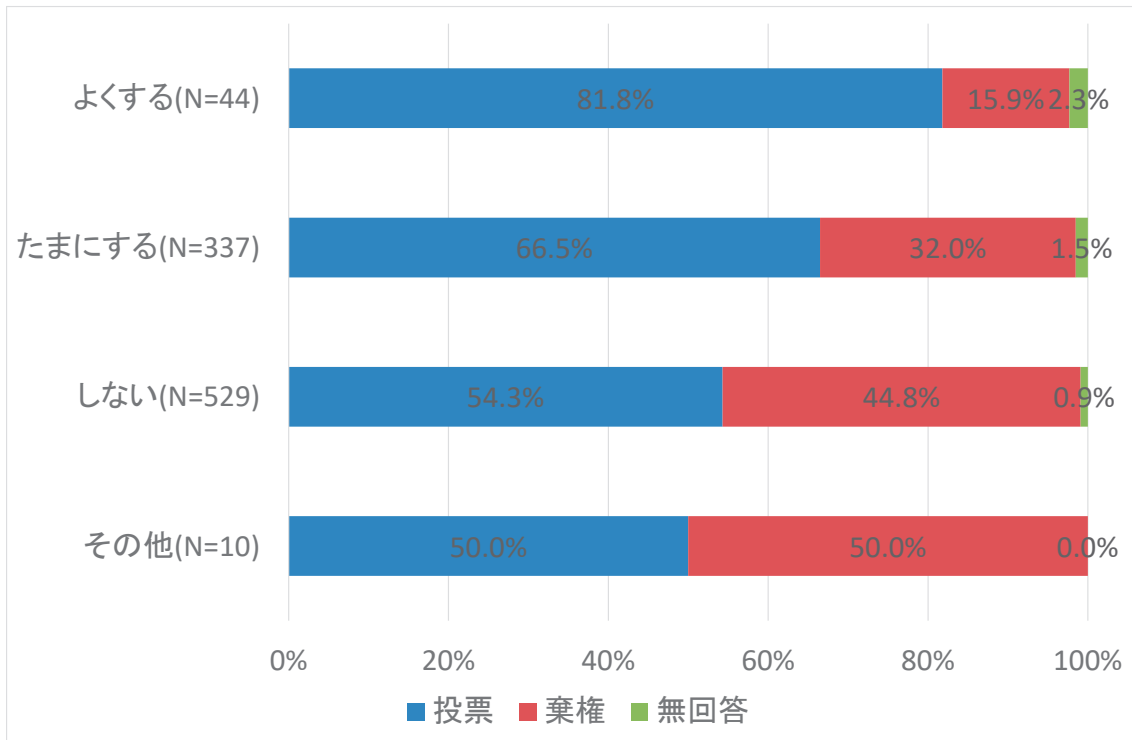
家族・親戚との政治や選挙等についての会話状況別の投票参加率を見ると、会話をする人ほど投票参加をする傾向があることが分かる。「よくする」人と「しない」人の差は33.1%ポイントもある。

「よくする」と「たまに」を合わせて多少でも会話をする人の投票参加率を集計すると67.9%であったが、「しない」人の投票参加率42.9%との差は25.0%ポイントもある。



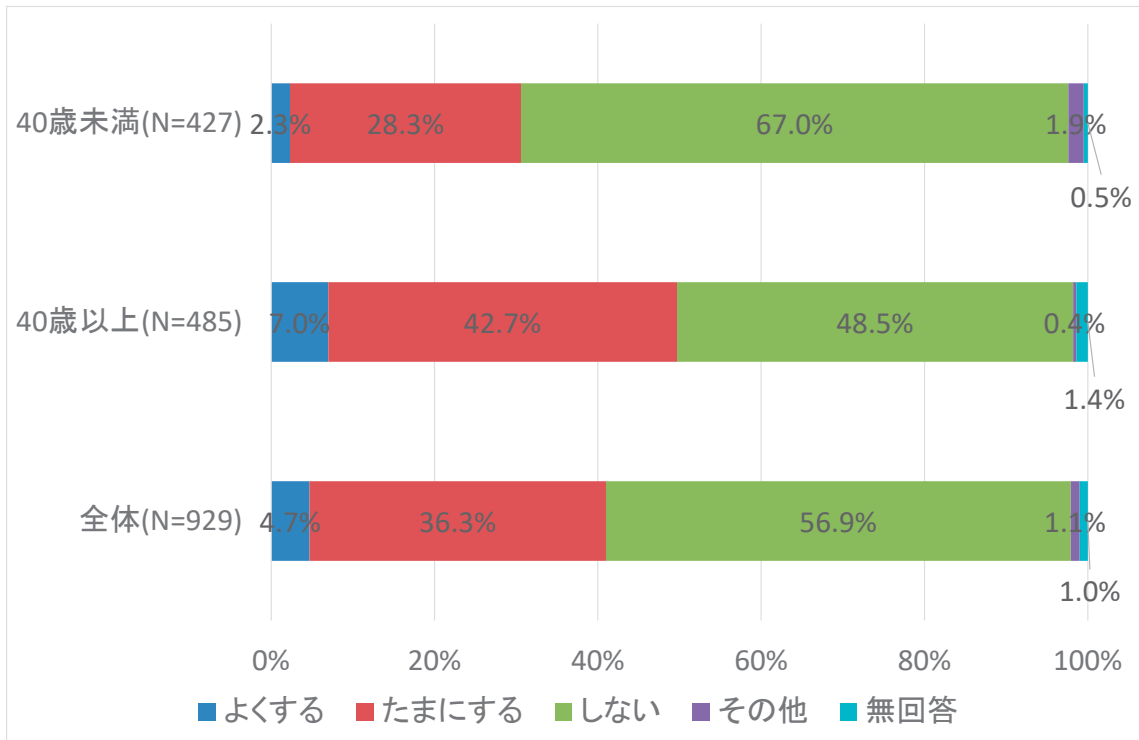
家族・親戚との政治や選挙等についての会話は、一般層は71.9%の人が、「よく」あるいは「たまに」と回答しているのに対して、若年層は61.2%しかそのように回答しておらず、10.7%ポイントもの差がついている。

友人・知人との会話



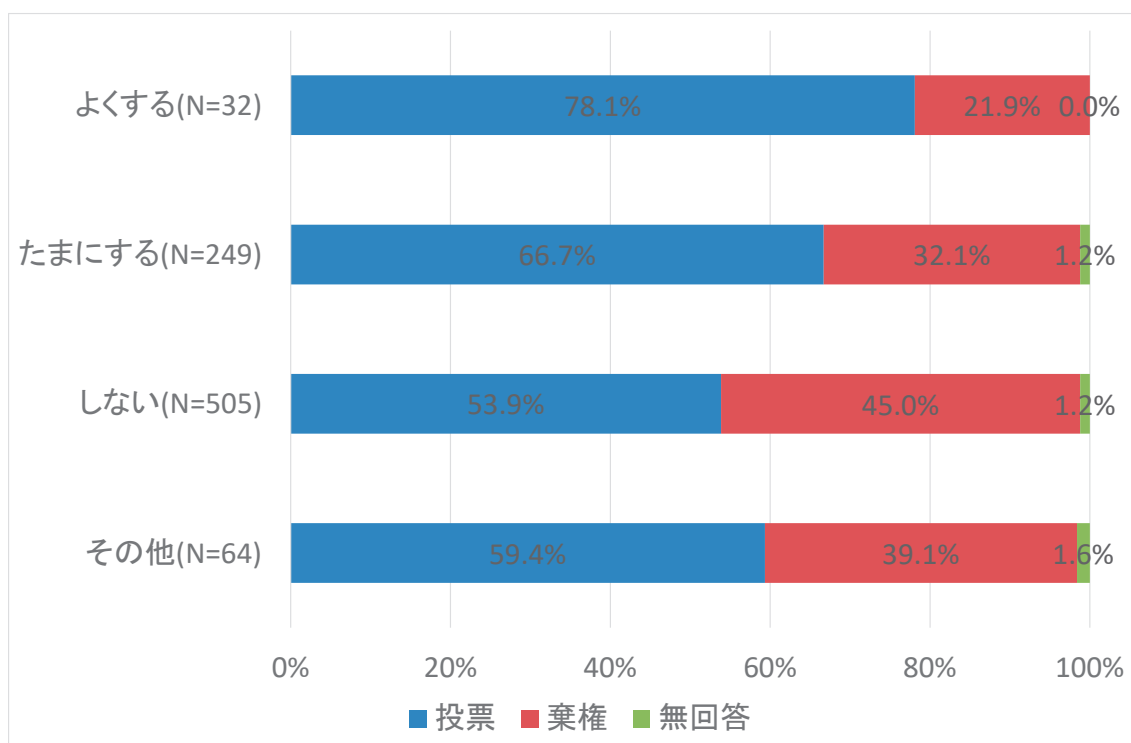
友人・知人との政治や選挙等についての会話状況別の投票参加率を見ると、会話をする人ほど投票参加をする傾向があることが分かる。「よくする」人は44人しかいないため、「たまにする」人と「しない」人を比べると、12.2%ポイントも差がある。

「よくする」と「たまにする」を合わせて多少でも会話をする人の投票参加率を集計すると68.2%であったが、「しない」人の投票参加率54.3%との差は13.9%ポイントもある。



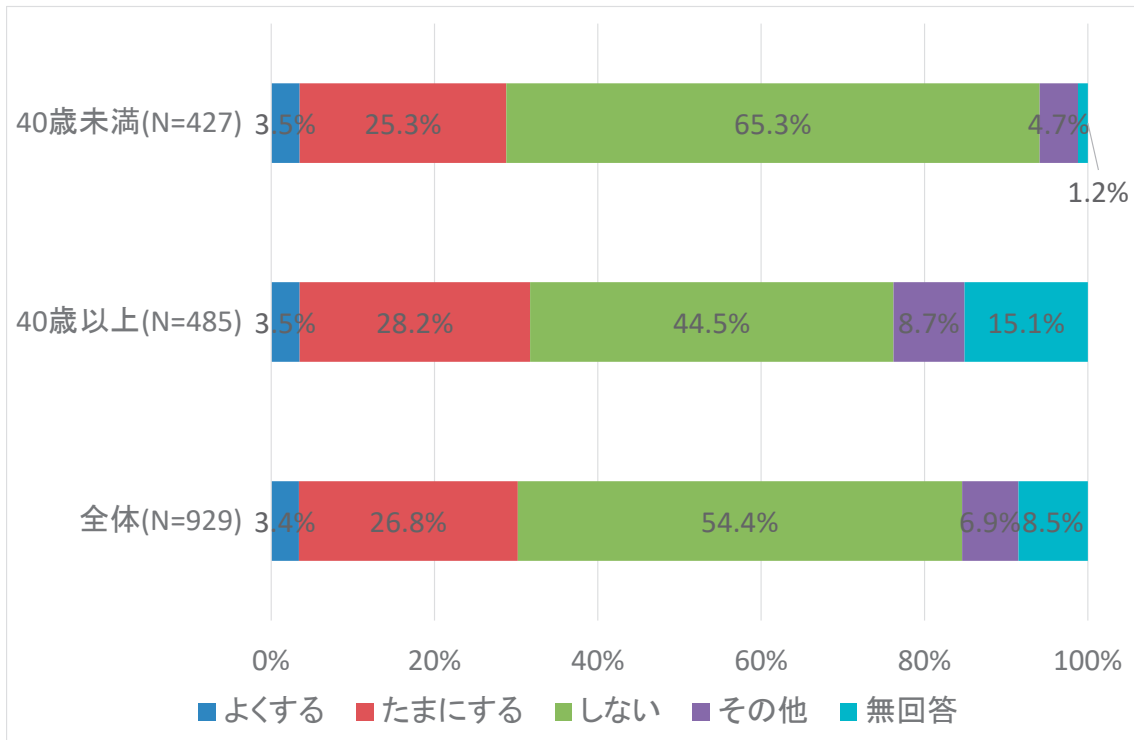
全体的に、家族・親戚に比べて友人・知人と政治や選挙等についての会話をする人は少ないが、一般層は 49.7%の人が、「よく」あるいは「たまに」と回答しているのに対して、若年層は 30.6%しかそのように回答しておらず、19.1%ポイントもの差がついている。

職場の人との会話



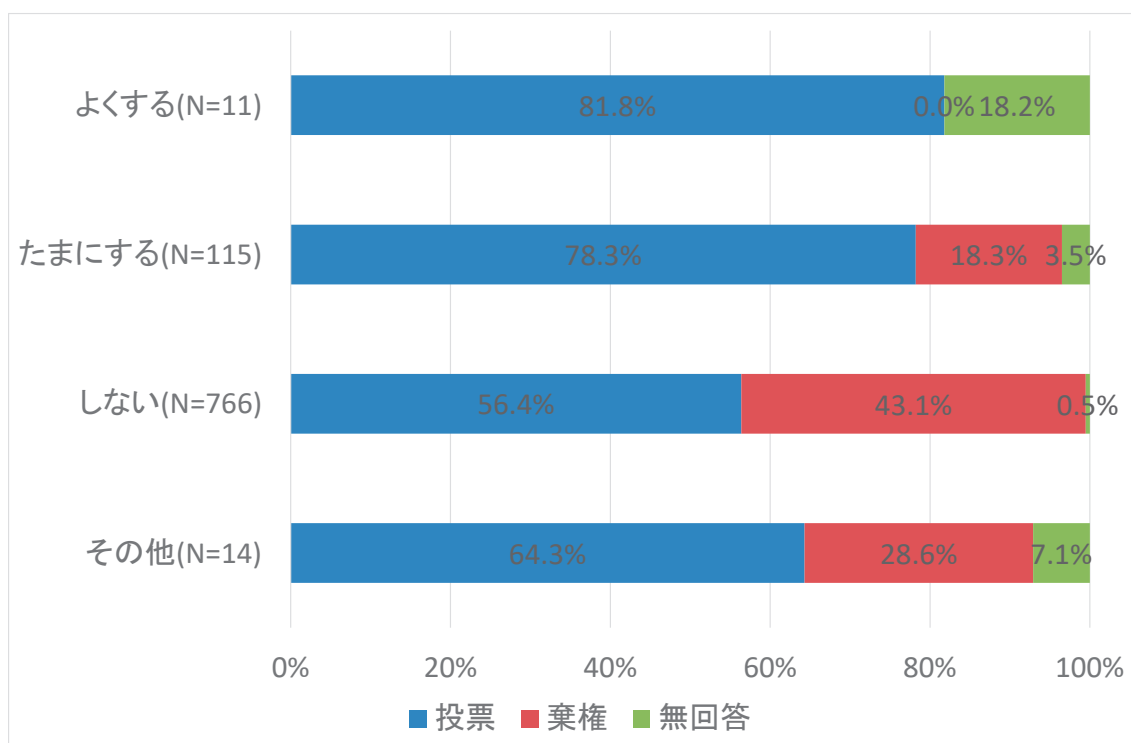
職場の人との政治や選挙等についての会話状況別の投票参加率を見ると、会話をする人ほど投票参加をする傾向があることが分かる。「よくする」人は32人しかいないため、「たまにする」人と「しない」人を比べると、12.8%ポイントも差がある。

「よくする」と「たまに」を合わせて多少でも会話をする人の投票参加率を集計すると68.0%であったが、「しない」人の投票参加率53.9%との差は14.1%ポイントもある。



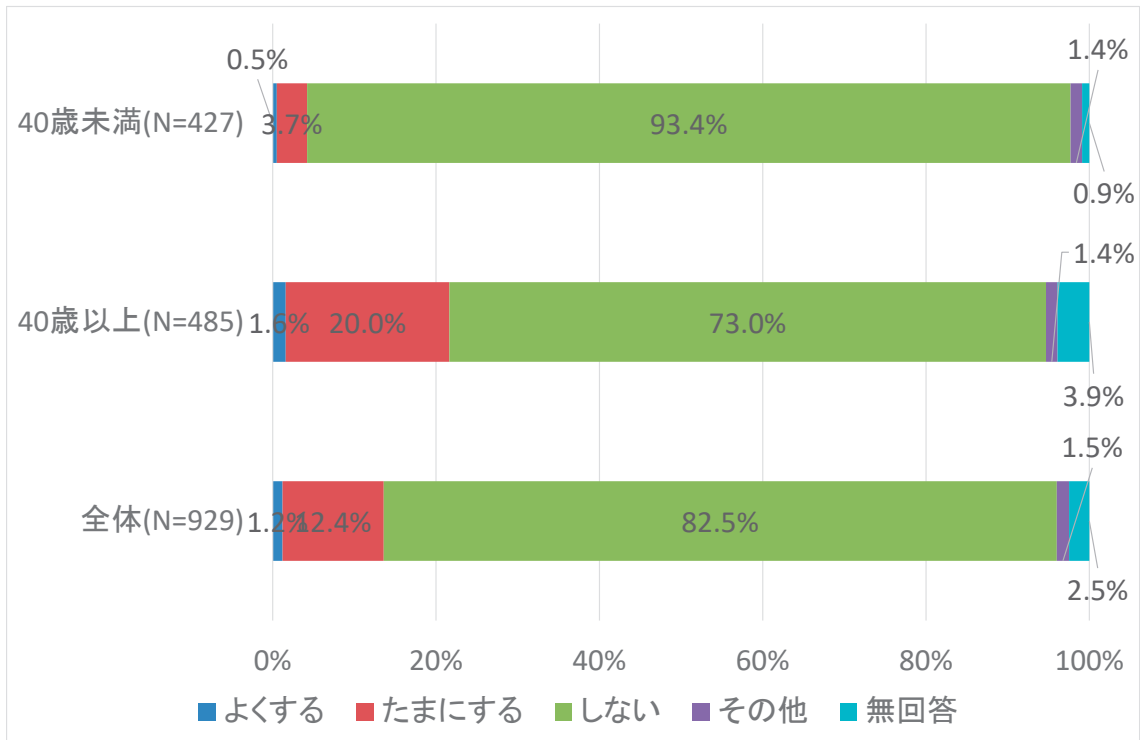
職場の人との政治や選挙等についての会話は、友人・知人以上に少ない。一般層は仕事を退職されている方が多いゆえか、「その他」や「無回答」が多くなっているが、それでも、31.7%の人が、「よく」あるいは「たまに」と回答しているのに対して、若年層は 28.8%しかそのように回答しておらず、2.9%ポイントの差がついている。

近所の人との会話



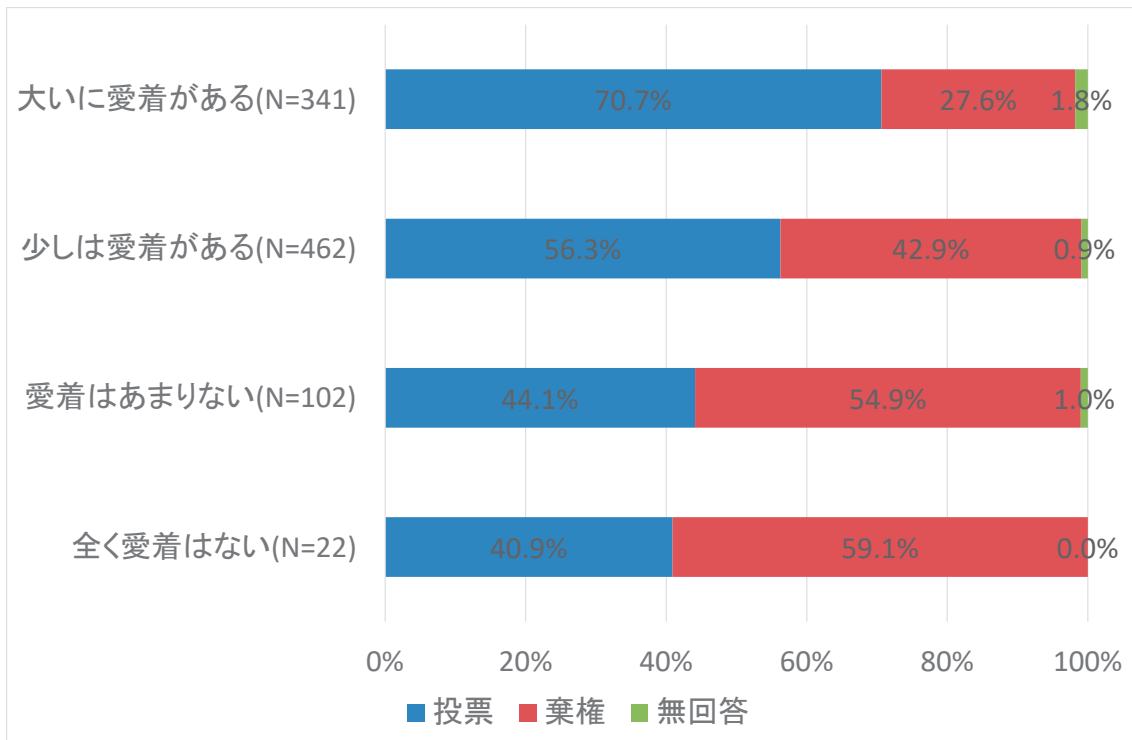
近所の人との政治や選挙等についての会話状況別の投票参加率を見ると、会話をする人ほど投票参加をする傾向があることが分かる。「よくする」人は11人しかいないため、「たまにする」人と「しない」人を比べると、21.9%ポイントも差がある。

「よくする」と「たまに」を合わせて多少でも会話をする人の投票参加率を集計すると78.6%であったが、「しない」人の投票参加率56.4%との差は22.2%ポイントもある。



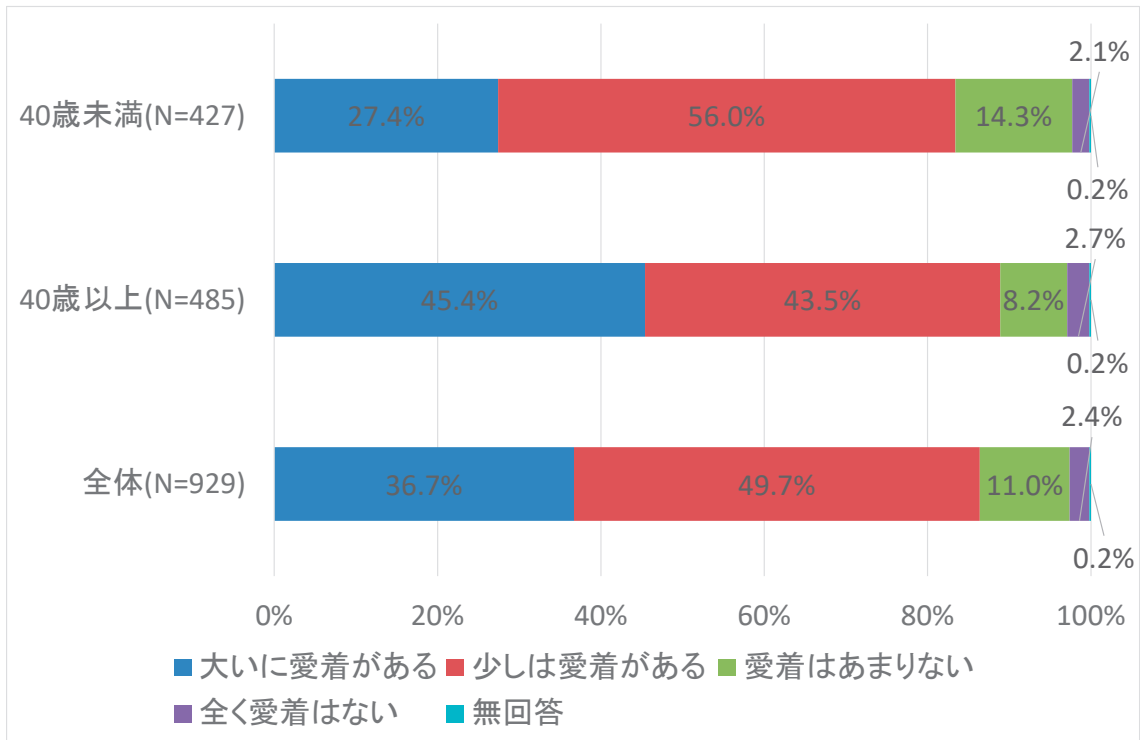
近所の人との政治や選挙等についての会話は、全体的に「しない」人が圧倒的に多いが、一般層は21.6%の人が、「よく」あるいは「たまに」と回答しているのに対して、若年層は4.2%しかそのように回答しておらず、17.4%ポイントもの差がついている。

[問9] あなたは、住んでいるまちに愛着をお持ちですか。当てはまる番号を1つ選んでください。



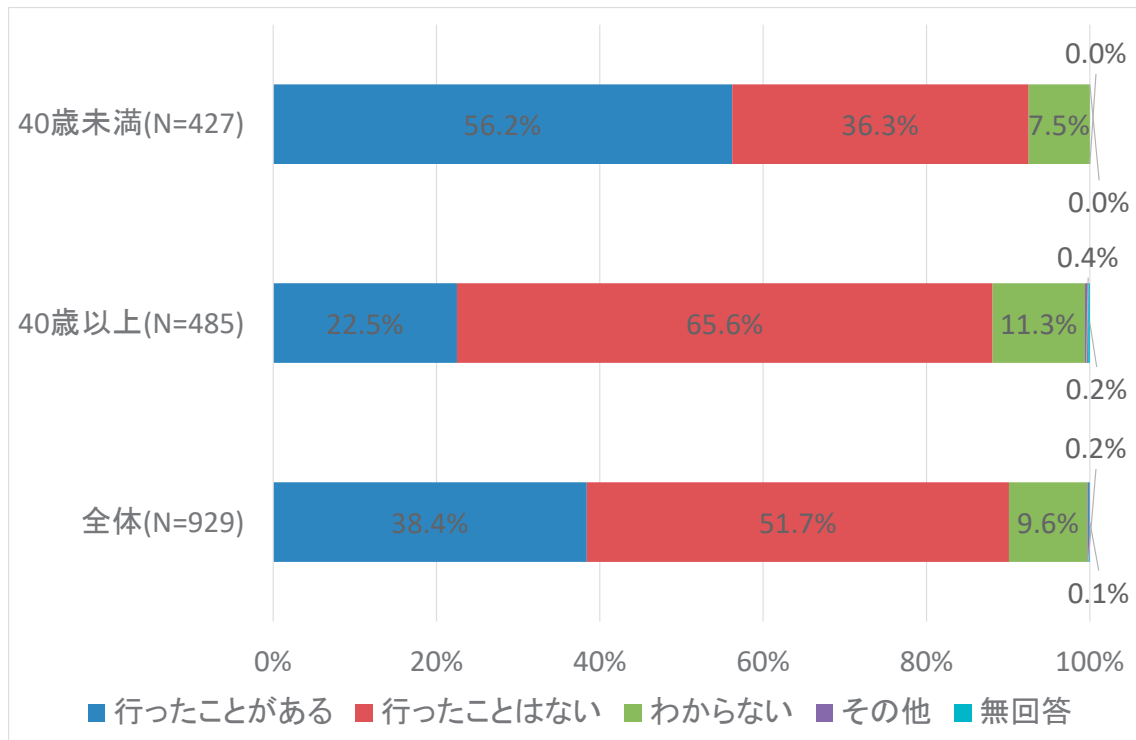
住んでいるまちへの愛着別の投票参加率を示したのが上のグラフであるが、愛着度が高いほど投票参加率が高いことが分かる。「全く愛着はない」人は22人しかいないため、「愛着はあまりない」と「大いに愛着がある」の投票参加率を比べると、26.6%ポイントも差がある。

「大いに」と「少しは」を合わせた「愛着がある人」の投票参加率を集計すると62.4%であり、「あまり」と「全く」を合わせた「愛着がない人」の投票参加率を集計すると43.5%であったが、その差は18.9%ポイントもある。



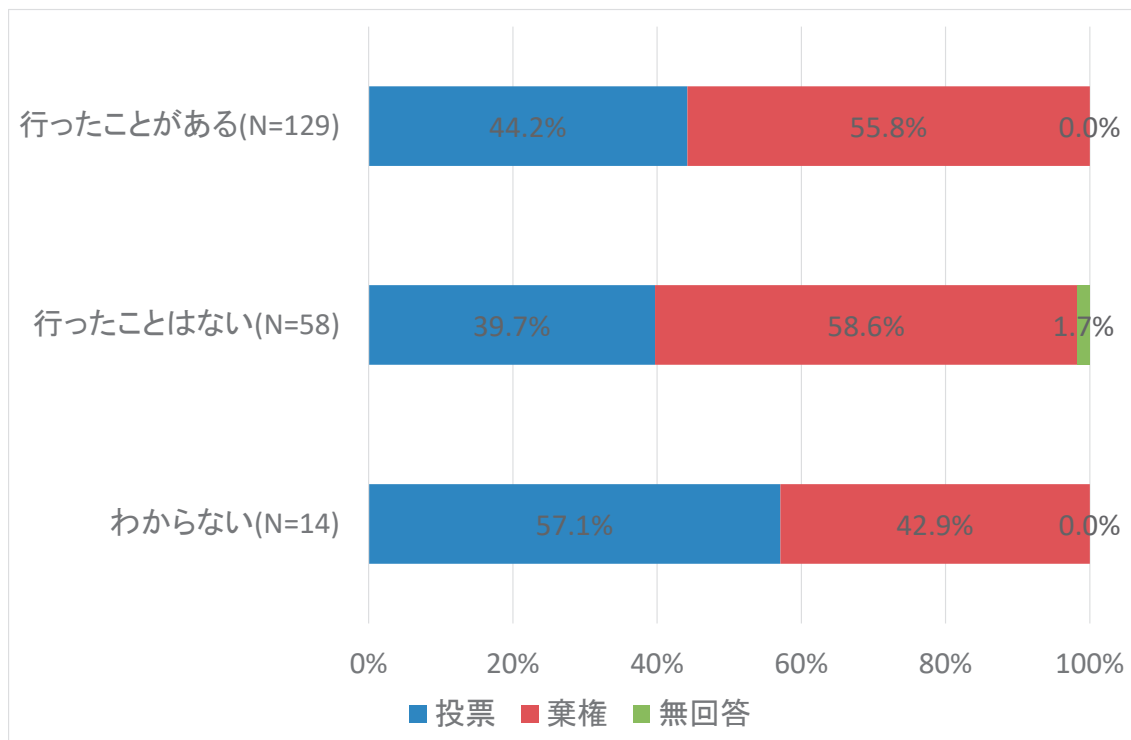
住んでいるまちへの愛着については、若年層も一般層も 8 割以上が「大いに」あるいは「少しは」愛着を持っていると答えているが、若年層の方が一般層よりも「大いに」が 18.0%ポイント少ないなど、若年層の方が愛着を持っている人が少ない。

[問 10] あなたは、子どものころ、保護者の方と投票所に行ったことがありますか。当てはまる番号を1つ選んでください。



保護者と投票所に行った経験については、公職選挙法の改正により投票所に同伴できる子どもが「幼児」から「18歳未満」に拡大されたのが2016年からであることや、一般層は記憶の薄れもあるゆえか、若年層の方が「行ったことがある」という回答が33.7%ポイントも多い。

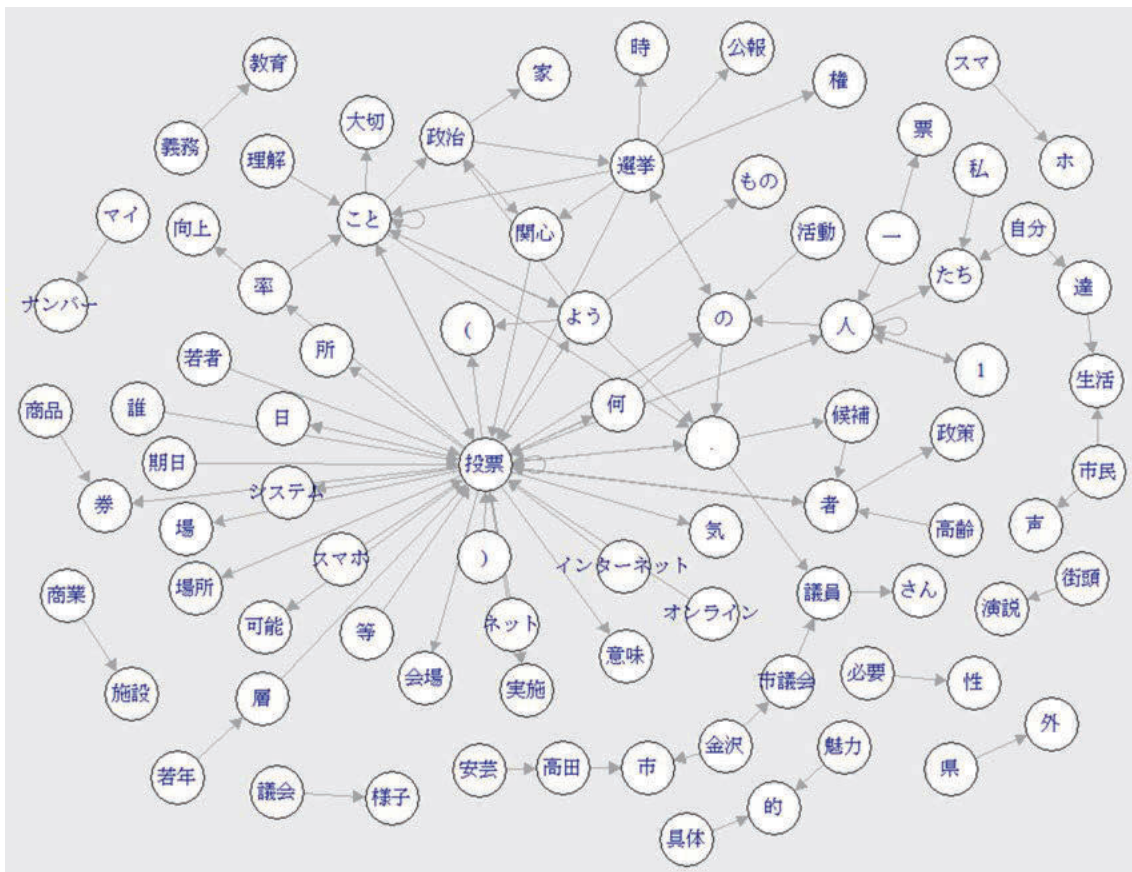
※10 - 20 代の 201 人の方のみ抽出して集計した。



投票所に同伴できる子どもが「幼児」から「18歳未満」に拡大された2016年以降に該当する10 - 20代のみを抽出して投票参加率を比較したものが上のグラフであるが、保護者と投票所に行ったことのある人の方が、投票参加率が4.5%ポイント高いことが確認できる。

[問 11] 近年、各種選挙の投票率は低下傾向にあり、今回の金沢市議会議員選挙の投票率は、過去最低の 35.80%となりました。どのようなことをすれば投票率の向上に効果があると思いますか。よろしければお書きください。

下のグラフ（ネットワークグラフ）は、どのような意見があったかの全体像を把握するため、[問 11]の投票率向上策についての自由記述中で 2 語連続して出てくる単語（名詞）で頻度 5 以上のものを図示したものである。



有権者の投票参加についての研究¹では、有権者が投票に行くかどうかに影響する要因として、①有権者が投票に行くことの大切さを理解していること、②有権者が候補者の政策などの違いを理解していること、③投票に行くコスト（投票に要する時間や労力）が低いこと、④接戦が予想されていて有権者が自分の一票の価値を感じられること、の 4 つが重要だといわれる。このうち、④はその時々選挙の状況に依存するため変えることは難しいものの、①②③は場合によっては改善が可能であると考えられるが、これらの点に関係する意見が多かった。

¹ 詳しくは、秦正樹「投票参加のメカニズム」（松田憲忠・岡田浩（編著）『よくわかる政治過程論』ミネルヴァ書房、58-59 頁）を参照されたい。

主権者教育・選挙啓発について

①の「投票に行くことの大切さの理解」に関しては、学校や地域で選挙の意義を学ぶ機会を増やすべきといった意見や、主権者教育・選挙啓発の内容に関する意見が多かった。

たとえば下記のような意見があった。

「子供の時から選挙は大切なものだという事、その意義等を学校でも教育するべき。」

「私は、学生の頃に、投票する人があまりにもいなくなると、その権利もなくなって、政治をする人だけがする恐ろしい社会になっちゃうよ、と先輩に言われ、選挙に特に興味はなかったのですが、白票でもいいから必ず投票には行っていました。権利と義務ということの小さい時から教えていったらいいと思います。」

「なぜ選挙が必要なのか？が分かりやすく、小さい子供でも楽しめる工夫をした内容で子供の頃から学ぶ機会を増やすと良いと思う。例えば警察の安全マナー講習の様に見て理解し、参加する事が出来る様なイベントが楽しめたら分かりやすくなるのではないかと思う。」

「学校の公民・社会科で昔の人が苦勞して得た選挙権の勉強をして欲しい。」

「義務教育で選挙の重要性を教える。」

「義務教育の中でももう少し強めに選挙へ行くことの大切さを学べる機会を増やすことも必要かなと考えます。」

「義務教育での選挙の必要性の周知。選挙をしない世界の話の教える。」

「義務教育での教育を行う事が必要と思う。税金に関する事も含めて年代に合わせた教育の機会にて意識・関心を育てる事により、将来の投票につながるのではないか。」

「町内会等自治活動で、選挙の意義や必要性などについて PR する。」

「議会の見学会を義務教育で取りあげる。」

「主権者教育の充実。知識として政治の仕組みを覚えさせるだけではなく、選挙の必要性を考えさせたり、身近な政治的事例を通して思考判断させたりする学習活動を実施させることにより、政治への関心を高めるとともに主権者としての自覚を持たせることが大切。」

「政治と自分達の生活が直結していることをいまいち分かっていない人が多いのかなと思います。」

「マスメディアは、政治と市民生活が密接にかかわっていて自分の投票行動が日本の行く先を決めるということを真摯に伝えてほしい。」

広報のメディアについて

①の「投票に行くことの大切さの理解」と、②の「候補者の違いの理解」の双方に関係する意見として、選挙管理委員会や候補者が、もっとインターネットや SNS を使って広報すべきという意見が多かった。

たとえば下記のような意見があった。

「情報源はほぼ SNS なので、位置情報による広告を打ったり、LINE などと協力して、ユーザーが強制的に見るキャンペーン (LINE が昔やっていた乗っ取り防止のキャンペーンの

ようなもの)を打ったりするのも良いかもしれない。」

「政治の情報を得るのは大抵 SNS であり、国や市の SNS から直接情報を得ることより、国や市、または政治団体などがクリエイターに委託して書かれた漫画などはよく目にするし、キャッチーだから読む人も多い気がする。」

「若者の投票率をあげるなら SNS で発信すればすぐに拡散されます（魅力がある人に限る）。」

「若い人の投票率を上げるために、SNS などで活動を行う。選挙カーで活動するのはうるさいので逆効果だと思う。」

「候補者の主張が SNS などの簡便なツールで見られるようになると良い。テレビや新聞では若い有権者には全く届かない。」

「子育てや仕事をしていると、候補者の情報を理解する時間がないので、YouTube 等いつでもみられるメディアがあるとよい。」

「普段の生活の中では選挙日すら知る機会が少ない。若者はネットや SNS をよく見るのだから広告欄を使うなどして選挙日を告知した方が良さそう。」

「インターネット（ユーチューブ、SNS）などの広告」

「若年層取り入れのために SNS をもっと取り入れる。現在しているのであれば、フォロワーになってもらうために特典やメリットを示すべき。」

候補者・議員・議会による広報のあり方について

②の「候補者の違いの理解」に関しては、候補者が多く、調べることが大変であるので、候補者の政策を一覧にするなど分かりやすく示せば投票率が上がるのではないかといった意見や、議員・政治家が普段何をやっているのか分からない、議会・議員の活動をもっと見えるようにするべき、といった意見が多かった。

たとえば下記のような意見があった。

「候補者に政策に関するアンケートを行い、その内容を一覧表の形式でホームページや広報誌などに掲載する。また現職議員については議員期間中にやったことをそのアンケートと共に掲載する。」

「候補者 1 人 1 人の情報をまとめた冊子みたいなのを作成して学校で配ってほしい。」

「TikTok で候補者の情報をまとめた動画を投稿する。」

「公平なメディアによる紹介。これまでの実績をまとめた記事（全部を見に行くのは非常に面倒）。YouTube でのまとめ紹介等があるところらも状況を確認しやすい。」

「SNS はよく見るので Twitter や Instagram もしくは簡単なサイトで候補者の一覧が見れたらいいなと思います。一覧には公約を簡単にまとめたもの・過去の功績・簡単な自己紹介があったら、今より参加意欲が上がる気がします。」

「候補者が、それぞれどのような政策をしようとしているのか分かりづらいので、項目をつくり一覧表にすると、わかりやすくて投票しようという気持ちになるかもしれない。」

「公報も見づらいです。全ての候補者の顔写真と名前、政策（簡潔にいくつか）、その方のウェブサイトなどの情報を、シンプルな一覧にして、そこから有権者が興味を持った方の詳しい情報を手に入れられるようになったら、ありがたいのに…と思いました。」

「候補者の政策や主張をハッキリさせて、それを広報する。」

「テレビで議会中継を要約した番組などを行い、誰がどんなことを提案、否定しているか情報発信すればよい。」

「数十人の候補者の政策等を一人一人調べるのが難儀であるため、各戸配布の選挙広報の内容をより詳細に充実してほしい。」

「現役の市議員がもっと有権者に日頃の活動を、さまざまな場面で告知する。」

「メディアでの討論会があれば面白いかも知れません。わざわざ細かい文字の資料を読んでいる時間はありませんので。」

「ポスターだけで、候補者の1番の力を入れる公約が分かれば、自分の希望に近い人をよく調べようと思うし、投票して応援しようと思うのではと思う。」

「例えば議会の様子を動画配信する。実際、どのように議会が行われているのか見ることができれば、どのような議員がいて、どのような質問をされてどのような答弁をされているのか、この議員は金沢市議会議員に相応しいのかを考えるきっかけになり、次の選挙に大きく役立つとおもう。是々非々で議論が行われているのか、とても興味がある。」

「市議会議員に関しては、市議会議員が果たす役割や重要性、そもそも何をしているのか知らない人が多いのではないかと思います。選挙の時だけではなく、普段の活動（議会の様子など）を定期的に地元メディアが報じる必要があると思います。」

「市議会議員の顔が浮かばない。普段から、何をしているのかのアピールが必要。」

「地域の議員の結果が、自分達の生活、仕事、色々なところで、伝わってきません。結果がもっと、市民に伝われば、投票率に変化があるかなと思います。」

「もっと市議会議員がどのようなことを提案してしっかり遂行できているのかを市民全員に明確に示すべきだと思う。」

「候補者が何をしたいかポイントを絞って明確にする。当選した場合、定期的に成果や取り組み状況について金沢市広報に掲載する。金沢市議会の議会をオンラインで見ることができる仕組みを作る。」

「安芸高田市のように、市民が市の運営に関心を持つような事をしたらいいと思う。現在、YouTube、TikTokで安芸高田市の議会の事が上がっており、非常に関心が有ります。」

「議会がYouTubeでも見る事ができれば、どんな議員（人柄）がいるのか分かりやすいし、選挙で誰に投票するかの役に立つと思う。若者の投票率を上げることがこれからかなり重要になると思うので、YouTubeなどで配信すれば、政治への関心、投票率の向上につながると思う。安芸高田市議会のYouTubeは見えておもしろい。」

投票環境について

③の「投票に行くコスト」に関しては、商業施設等で期日前投票が出来る場所を増やすなど、投票の利便性向上に期待する意見も多かった。

たとえば、下記のような意見があった。

「近所のスーパーで期日前投票が出来るようになってから毎回期日前投票をしています。休日にわざわざ駐車場が少ない投票所へ行くよりも、夜まで開いていて、期間の長い期日前投票の方が仕事をしている者には利用しやすいと思います。」

「商業施設内で投票できるのは買い物ついでに寄りやすくて良かったです。」

「例えば駅や郵便局など、何かのついでに投票ができれば率は上がると思う。」

「期日前投票の会場を商業施設など人が多く集まる場所とする。」

「投票場所をもっと身近に。例：スーパー等にも投票所を一定の期間設ける。」

「もっとデパートや駅の商業施設、仮設の投票所などを増やすべきと考えます（東京では駅直結のデパートの上に期日前投票所がありました）。」

「学校や職場の敷地内に投票所を設置する。」

「投票場所の増加。少し遠いと投票に行かない。」

上記に当てはまらないその他の意見や、法改正が必要な意見として、下記のようなものがあった。

オンライン投票（ネット投票）等について

インターネット、スマホを使って投票できるようにすればよいのではないかなど、選挙制度の見直しを求める意見も多かった。

たとえば下記のような意見があった。

「子供が小さく、選挙当日もワンオペ育児の中、投票所に行くのが本当に大変でした。ネット投票が最も手軽で効率よく投票率を上げる方法だと思います。」

「マイナンバーカードを有効活用した自宅からできるオンライン投票の実施。」

「オンライン投票を実施して、有権者（特に若年層）が時間や場所に拘束されずに投票できるようにする。」

「スマホ時代なので、オンライン投票にすれば良いと思う。」

「スマホでも投票できるようにしたら若い人や子育て中で時間がない人にとって効率的な投票になると思います。」

「SNS などを使用して選挙があることを告知する。インターネットで投票できるようにする。」

「住民登録がない場所では投票が出来ません。その時期に市外、県外に居れば、出来ません。マイナンバーカードなどを活用して、日本全国何処に居ようが投票できるようになれば向上するかと。」

「移動手段が無かったり、投票所へ行くことが出来ない高齢者の方々のために郵送で投票できるように。」

投票の特典について

投票することに特典を与えるとよいという意見も多かった。

たとえば下記のような意見があった。

「投票券（はがき）を地域振興のクーポンの引換を伴うようなものにする。」

「投票に来れば 1 万円の金沢市お買物クーポン発行など、インセンティブで行動をうながす。」

「粗品やクーポンを配る。」

「投票するとお得なクーポンがもらえるようにする。」

「投票した人に地域で使えるクーポンなどを配る。」

「投票した人には地域の店で使えるクーポン券やポイントを配布する。又は、投票所を普段一般市民が入れない場所に新たに設けてアトラクション性を出す。」

「日頃、買い物に行くスーパーなどのポイントを与えて欲しい。」

「投票するとポイントがもらえる、商品券がもらえるなどにする。」

「マイナカードを使ってマイナポイントを付けたら良い。」

「投票することのメリット、お得感が実感できる何か、（例えば、ポイント、コンビニの商品割引券など）で少しは動くかもしれないです。」

「投票率の向上だけを考えるなら、投票によりマイナポイントがもらえることや、クーポンがもらえるなどわかりやすいメリットを用意する。」

政治のあり方について

市民の声が届いていると感じられるような政治をして欲しい、市民の声を直接聞き対話する機会を増やして欲しい、選挙で自分達の生活がよくなったと感じられるような政治が行われれば投票に行くのではないかと、といった意見も多かった。

たとえば下記のような意見があった。

「候補者側の意見を直接聞ける機会を増やし、また、市民の声を直接聞いて対話できる機会を増やして頂けると信頼関係が向上する一助にならないでしょうか。」

「何か政策を行う際に「市民の声を反映して」行うことに決めました、等、市民の声が届くということを地道にアピールしていくべきではないか。」

「市民の声をもっと聞くべき。現在、誰がなっても同じで、何もかわらない。」

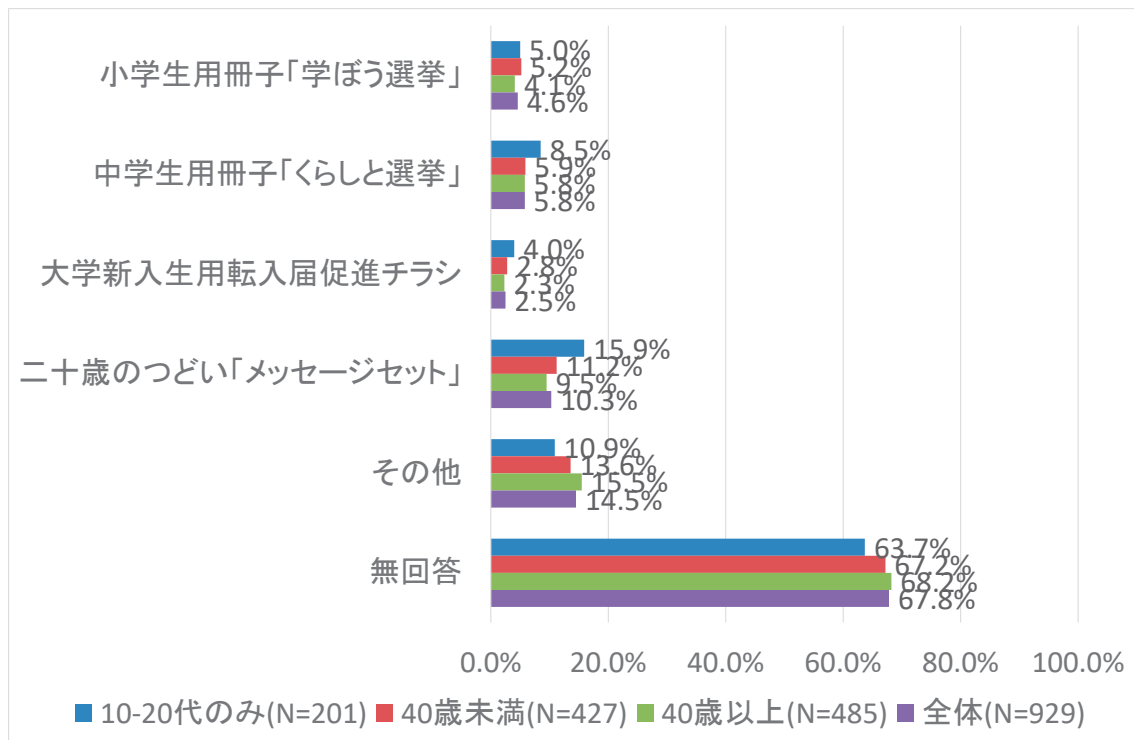
「金沢市の政治に興味はないが、住んだことも行ったこともない安芸高田市の市長の動向を気にしている自分がいることから、金沢市もほんとうの意味で有権者が応援したくなるような政治をすることが重要だと感じる。」

「若年層の投票率を増やすには、現段階で若者にとって有益な政策を打ち立ててくれてい

る政治家が少なすぎるので、もっと増やす必要がある。」

「投票に行って、自分達の生活・暮らしが良くなると実感がわかれば良いが、実感がわからない。過去に行った投票も良くなっているのかわからない。」

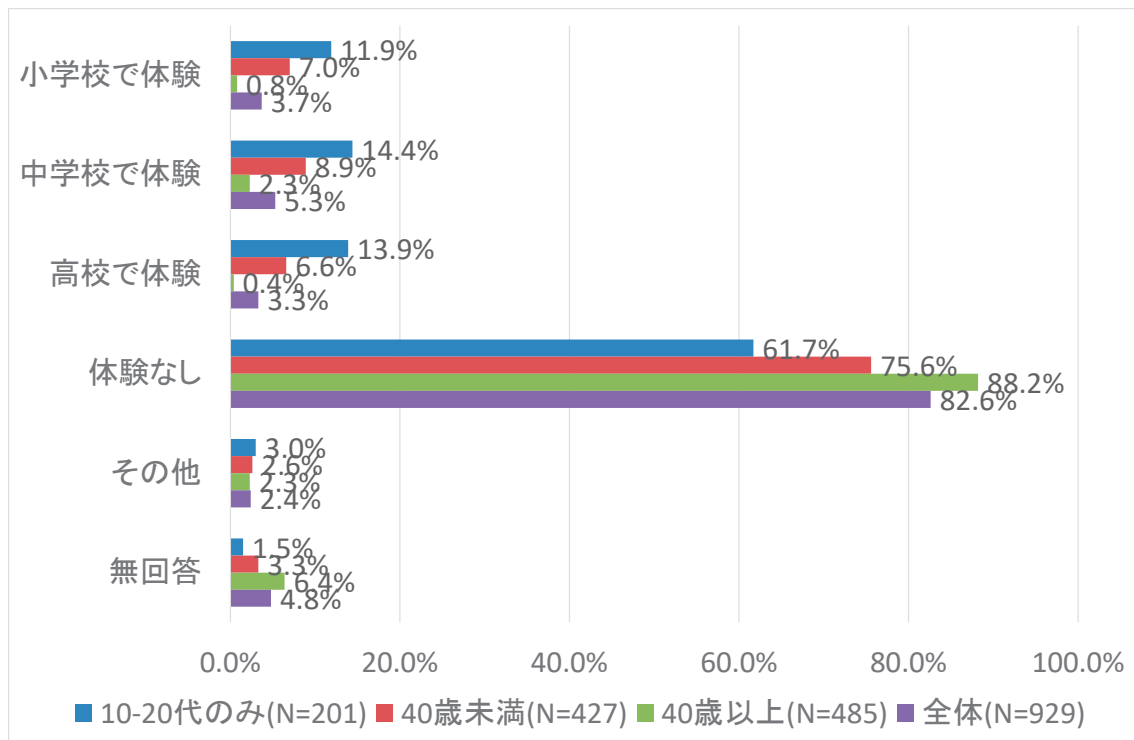
[問 12] 金沢市選挙管理委員会では、投票率の向上のため様々な広報を行っています。以下のうち、あなたが見たり受け取ったりしたのがありますか。当てはまる番号をすべて選んでください。



若年層向けの選挙管理委員会の広報への接触については、全体的に、どれにも「接触した」と答えなかった「無回答」が多い。「その他」についても、その自由記述を見ると「受け取ったことがない」といった記述が多かったため、その多くは接触しなかったという趣旨の回答であると考えられる。

小学生用冊子の「学ぼう選挙」は初版が平成 21 (2009) 年、中学生用冊子の「くらしと選挙」は初版が平成 26 (2014) 年、転入届促進チラシは配布開始が平成 28 (2016) 年、メッセージセットは配布開始が平成 20 (2008) 年であるため、40 歳以上の一般層は当事者としては受け取っていないはずであるが、保護者などの立場で見たことがあるということであろうか。グラフには、配布の主な対象であった 10 - 20 代のみの集計も参考までに示したが、他の年齢層よりは受け取ったという回答が多い傾向がある。

[問 13] 金沢市選挙管理委員会では、学校等で出前講座を行い、主権者教育や模擬投票などを行っています。あなたは、学校の授業で「模擬投票」を体験したことがありますか。当てはまる番号をすべて選んでください（金沢市の学校以外での体験も含む）。

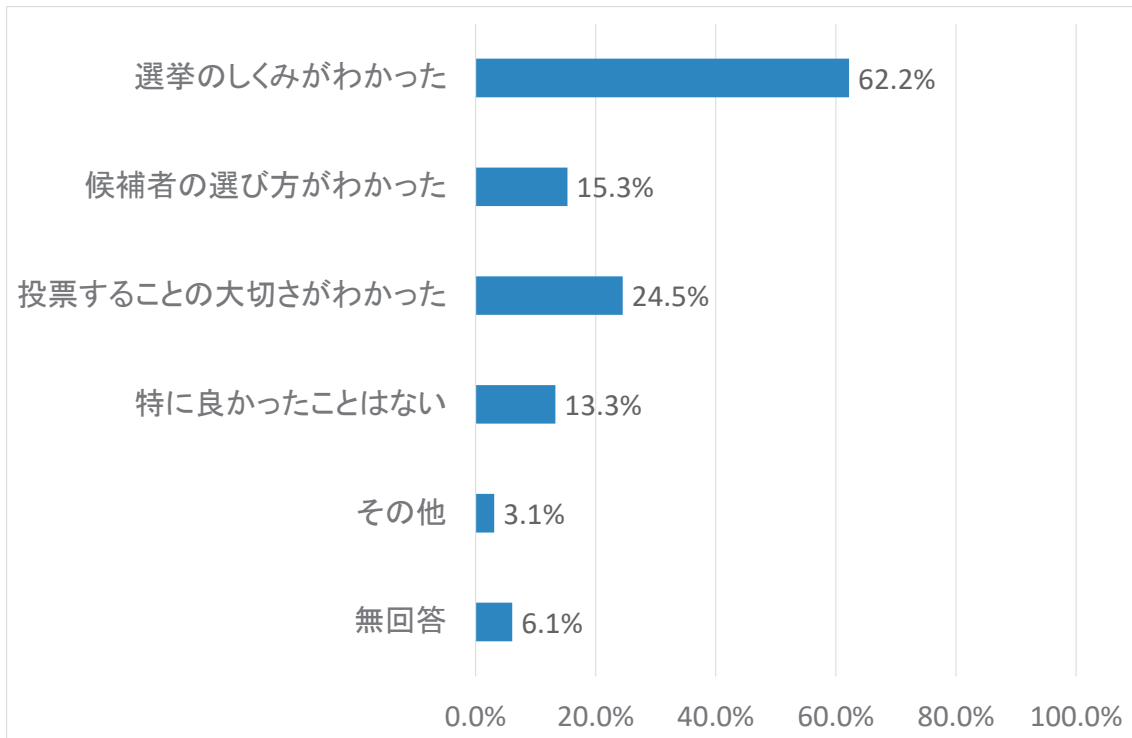


模擬投票が各種の学校等で積極的に行われるようになったのが18歳選挙権が導入された2016年前後からであるため、それに該当する10-20代のみの集計も参考までに示した。

一般層よりも若年層、さらには若年層全体よりも10-20代のみの方が模擬投票の体験率が高くなっている。しかし、「体験したことがない」という回答が、若年層でも75.6%、10-20代のみでも61.7%と多い。

[問 14] (※模擬投票を体験したことのある方のみお答えください) 今回の金沢市議会議員選挙で投票にいったかどうかは別として、模擬投票を体験して良かったことはありますか。当てはまる番号をすべて選んでください。

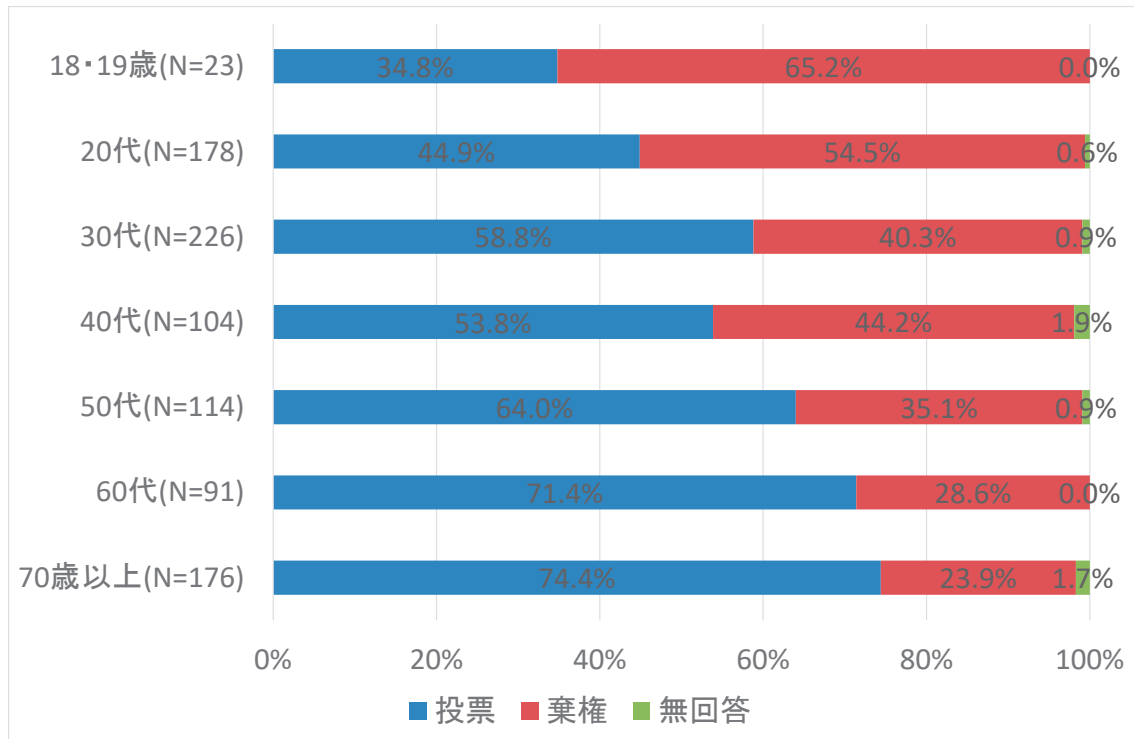
※[問 13]で小、中、高いいずれかで模擬投票を体験したと回答した 98 人について集計した。



模擬投票を体験してよかったことについては、「選挙のしくみが分かった」という回答が 62.2%で最も多く、次いで「投票することの大切さが分かった」が 24.5%が多い。

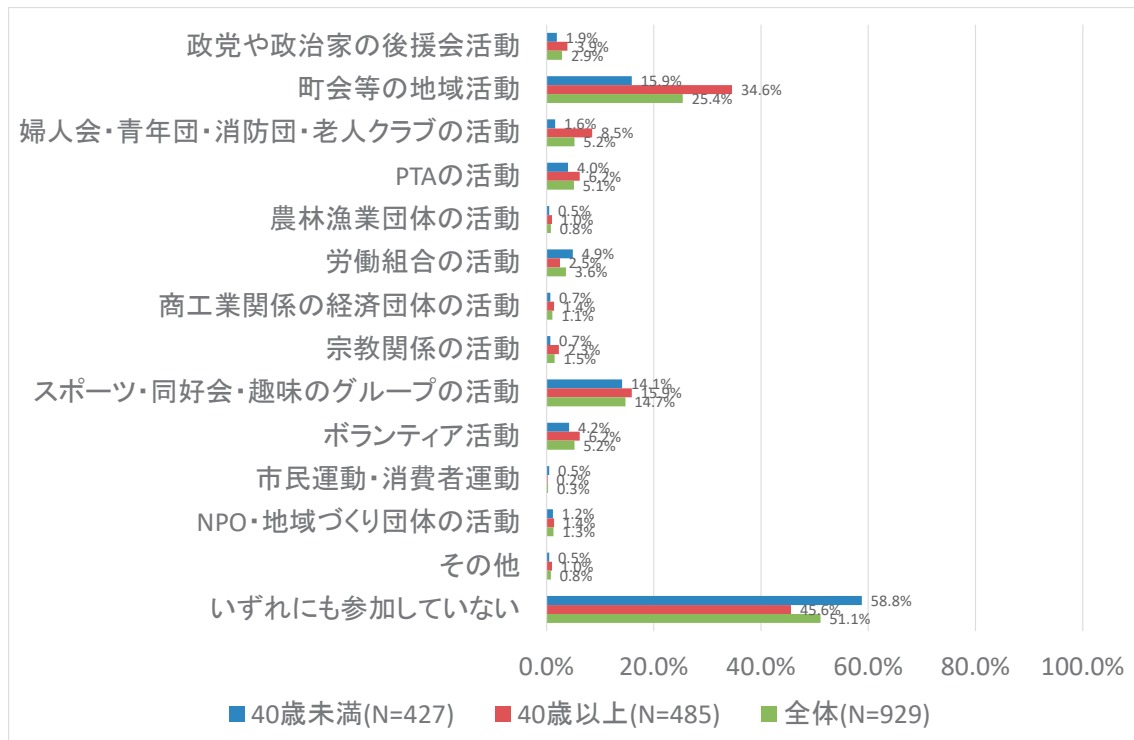
[問 15] あなたの年齢を教えてください。

※年齢層別の回収数や構成比については、「Ⅱ 回収の結果について」を参照されたい。



年齢層別の投票参加率を示したものが上のグラフである。年齢が高くなるほど投票参加率が高くなる傾向があることが確認できる。

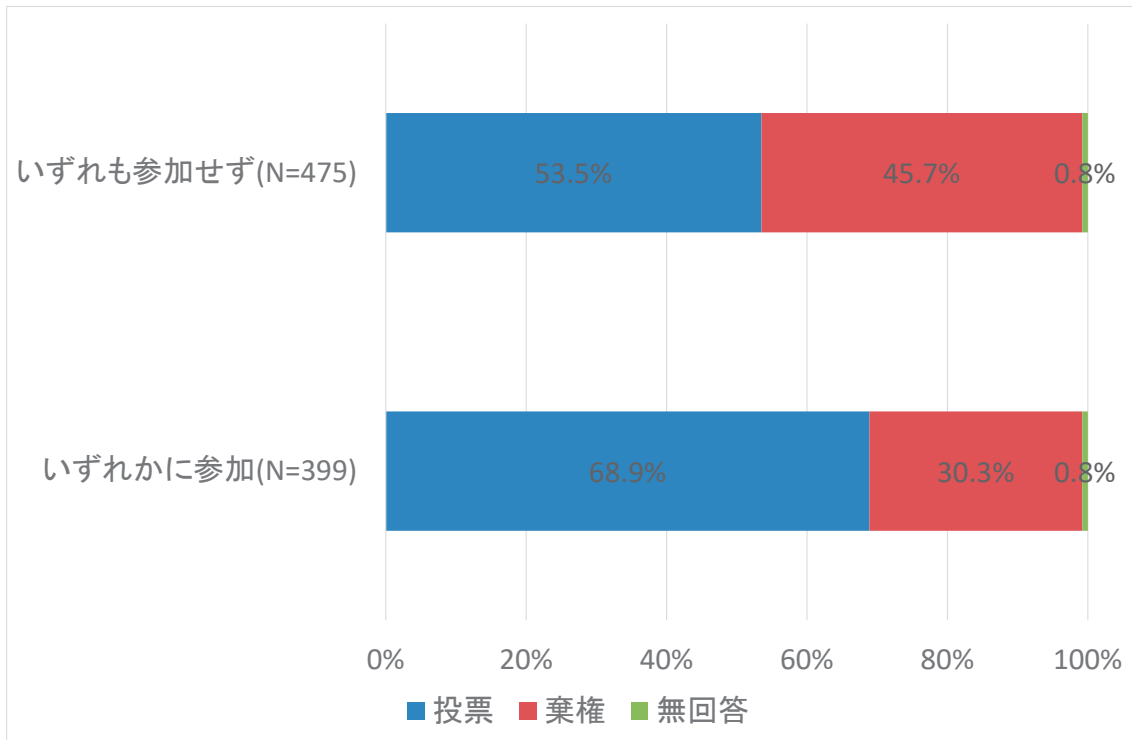
[問 17] 日頃から参加している活動などがありますか。当てはまる番号をすべて選んでください。



日頃参加している活動については、一般層も若年層も「いずれにも参加していない」が最も多いが、若年層の方がより不参加者が多い。

一般層は、「町会等の地域活動」が最も多く、「同好会等の活動」がそれに次ぐ。その他の活動は10%を超えない。

若年層も、「町会等の地域活動」と「同好会等の活動」が多いが、「町会等の地域活動」は、一般層に比べて18.7%ポイントも低くなっている。



【問 17】で「いずれにも参加していない」と回答した人と、いずれかの活動について1つでも参加していると回答した人の投票参加率を比べたものが上のグラフである（いずれの活動にも参加していると回答しなかったにも関わらず「いずれにも参加していない」を選択していないなどの不規則回答は集計から除外している）。

「いずれにも参加していない」と回答した人の投票参加率は53.5%であるのに対して、いずれかの活動に参加している人の投票参加率は68.9%となっており、何らかの活動に参加している人は、そうでない人に比べて投票参加率が15.4%ポイントも高い。

IV 考察

前章では、金沢市の有権者を対象とするアンケート調査の結果を、40歳未満の「若年層」と40歳以上の「一般層」の比較を中心に分析をしてきた。分析の結果、若年層は一般層と比べて投票参加率が顕著に低いこと、特に期日前投票制度の利用が低調であることがまずは明らかになった。また、若年層で投票した人は、特定の政党や候補者を支持する意識よりは周りの人の働きかけが投票のきっかけになっている人が多いこと、若年層で棄権した人は、多忙や面倒といった選挙自体に対する忌避や、投票日や立候補者などについての情報の無さを棄権理由として挙げる人が多いことも明らかになった。さらには、若年層は、新聞やテレビ・ラジオといった従来型メディアの利用が少なくインターネットを情報源として挙げる人が顕著に多いこと、家族や近所の人など周りの人と政治や選挙等の会話をする人が少ないこと、地域の活動に参加したり地域に愛着を持つ人が少ないことなども明らかになった。

ここでは、これまでの分析結果をもとに、投票率が特に低い若年層の投票率向上策を講じる際に重要と思われる点について指摘したい。

1つは、選挙啓発や選挙情報の提供におけるインターネットのさらなる活用である。若年層は政治や選挙に関する普段の情報源としてインターネットのニュースやSNS等を挙げる人が一般層と比べて顕著に多かった（[問5]）。また、選管の広報への接触についても、金沢市公式ホームページやLINEによる広報については若年層は一般層を上回る接触率を示しており、しかも、それらに接触した人の投票参加率は高かった（[問6]）。投票率向上策についての自由記述でも、「普段の生活の中では投票日すら知る機会が少ない。若者はよくネットやSNSを見るので広告を出す等で投票を呼び掛けるべき」「情報源はほぼSNSで、大学に入って一人暮らしを始めてからは家にテレビがないのでいつが投票なのか、どこに行けばいいのかよく分からなかった」といった意見があった（[問11]）。若年層は棄権理由について「選挙があることや投票日を知らなかった」という回答が2割程度と多かったが（[問4]）、従来の広報手段では選挙の期日や場所といった基本的な情報すら到達しなくなってくる恐れがある。

2つめは、期日前投票の利便性向上とさらなる周知である。若年層は棄権理由として「多忙」や「面倒」を挙げる人が多かったが（[問4]）、商業施設や学校や駅等で投票できる場所が増えれば、投票のハードルを下げる事が出来るであろう。若年層は特に期日前投票の利用が低調であったが（[問1]）、利便性向上とさらなる周知によって期日前投票の利用を促進する余地は大きいのではないかと。

3つめは、政治や選挙について、周りの人の働きかけや会話を促す手立てを講じることである。若年層は周りの人の働きかけが投票のきっかけになっている人が多い（[問2][問3]）。また、若年層は一般層と比べて周りの人と政治や選挙の会話をする人が少ないが、会話の有

無は投票参加率に大きな差をもたらす（[問 8]）。さらには、若年層でも 8 割近くの人が同居者の投票参加状況について把握しているが、同居者が投票しているか否かで投票参加率に大きな差があることから（[問 7]）、周りの人の影響は大きいと考えられる。たとえば、選挙啓発・主権者教育にあたっては、家族や友人との会話につなげるような工夫ができればよいのではないか。若年層は、全体的に政治や選挙の会話をする人が少ない中で家族・親戚とは比較的会話をする人が多く、しかも、家族・親戚と会話をするか否かは投票参加率に大きな差をもたらしていることから（[問 8]）、特に、家族・親戚からの働きかけや会話の効果が大きいと考えられる。

4 つめは、地域活動への参加を促すことやまちへの愛着を持ってもらうことである。若年層は、特に町会等の地域活動の参加率が低いが、日頃から何らかの活動に参加することは投票参加率を向上させる（[問 17]）。また、若年層は一般層に比べてまちに愛着を持つ人が少ないが、まちへの愛着の有無は投票参加率に大きな差をもたらす（[問 9]）。今回のアンケート調査は地域密着型の市議会議員選挙を対象としたものであることの影響も考えられるが、地域活動に関わる機会が増え、まちへの愛着が高まれば、若年層の投票参加率も向上するのではないだろうか。

5 つめは、議会や議員の活動や主張をもっと見えるように、また分かりやすく示すことである。若年層は、投票理由について「支持する政党や候補者があるから」と答える人が少なく（[問 2]）、投票候補決定理由について「候補者の人柄や印象がよいから」と答える人が少なく（[問 3]）、棄権理由について「どの候補者が立候補しているかの情報がなかった」という回答が多かった。特に市議会議員選挙の場合は候補者が四十数名と多く、しかも、テレビや新聞では個々の議員や候補者についてほとんど取り上げられないこともあって、どのような議員・候補者がいてどのような活動や主張をしているのかよく分からず、誰に投票すればよいか分からないために棄権する若年層が多いのではないだろうか。若年層の利用も多い選挙公報（[問 6]）を見れば候補者の主張の一通りのことは分かるものの、見づらいため、要約や一覧にしたものがあればよいという意見も多かった（[問 11]）。

おわりに

この報告書は、金沢市選挙管理委員会からの委託を受けて令和 5（2023）年 9 月から 10 月にかけて実施した金沢市の有権者を対象とするアンケート調査の集計結果を示し、分析・考察を加えたものである。

お忙しい中、お時間を割いてアンケートにご回答を頂いた 929 名の方々、及び調査にご協力頂いた金沢市選挙管理委員会の方々に厚く御礼申し上げたい。

この報告書が、今後の投票環境改善や選挙啓発の取り組みの参考になれば幸いである。

金沢大学法学類投票行動論研究室

代表 岡田 浩

資料（調査票）

各設問について、選択肢の中から当てはまるものを選んで、①のように○印をつけていただくか、[]内に回答をご記入ください。

【問1】 あなたは、今年4月23日に行われた**金沢市議会議員選挙**では投票しましたか。当てはまる番号を**1つ**選んでください。

1. 投票日当日に投票した
 2. 期日前投票所で投票した
 3. 不在者投票（施設や郵便）で投票した
 4. 投票しなかった
- **【問2】**にお進みください。
→ **次ページの【問4】**にお進みください。

【問2】（※投票した方のみお答え下さい） 今回の金沢市議会議員選挙で投票した理由は、次のうちどれですか。当てはまる番号を**すべて**選んでください。

1. 投票できる権利を行使したいから
2. 投票することは義務だと思うから
3. 支持している政党や候補者がいるから
4. 自分の声を政治に反映させたい・届けたいから
5. 家族や知り合いから投票に行くよう言われたから
6. 「投票に行こう」といった広報をよく目にしたから
7. その他（ ）

【問3】（※投票した方のみお答え下さい） どの候補者に投票するかを決めた理由は、次のうちどれですか。当てはまる番号を**すべて**選んでください。

1. 政策や主張が自分の考えに近いから
2. 支持している政党の候補者だから
3. 人柄や印象がよいから
4. 候補者を見たことがある、話したことがあるなど馴染みがあったから
5. 能力や実績があるから
6. 応援したい性別や年齢層だから
7. 特定の地域の課題に取り組んでくれそうだから
8. 特定の職業の人々の課題に取り組んでくれそうだから
9. 家族、同僚、近所の人など知り合いに頼まれたから
10. その他（ ）

→ **次ページの【問5】**にお進みください。

[問4] (※投票しなかった方のみお答え下さい) 今回の金沢市議会議員選挙で投票しなかった理由は、次のうちどれですか。当てはまる番号を**すべて**選んでください。

1. 選挙があることや投票日を知らなかったから
2. 投票所の場所や施設が不便だったから
3. 選挙のしくみが分からなかったから
4. どの候補者が立候補しているかの情報がなかったから
5. 候補者の政策や主張の違いが分からなかったから
6. どの候補者にも期待できないから
7. 政治や選挙には関心がないから
8. 自分一人が投票してもしなくても結果は変わらないと思ったから
9. 家族や知り合いも投票していないから
10. 病気など身体の都合で行けなかったから
11. 忙しく時間がなかったから
12. 面倒だったから
13. その他 ()

[問5] あなたが、政治や選挙に関する情報を得るために普段利用している情報源は何ですか。当てはまる番号を**すべて**選んでください。

1. 新聞
2. 雑誌・週刊誌
3. テレビ・ラジオ
4. インターネットのニュース（ニュースアプリ等を含む）
5. インターネットのSNS*や掲示板
(※Twitter・Instagram・Facebook等で、ここでは政党・議員・候補者のSNSを除く)
6. 国や自治体（都道府県、市区町村）のウェブサイト
7. 民間企業や民間団体のウェブサイト（ニュース・SNS除く）
8. 政党・議員・候補者等が発行する書籍・チラシ・ポスター等の印刷物
9. 政党・議員・候補者による街頭演説
10. 政党・議員・候補者のウェブサイト・SNS
11. 周りの人の話やクチコミ
12. 政治や選挙に関する情報を得ることはない
13. その他 ()

【問8】 あなたは、政治や選挙、あるいは地域の課題やまちづくりなどの話題について、まわりの人と話をすることがありますか。それぞれの項目ごとに当てはまる番号を**1つずつ**選んでください。

家族・親戚と

- | | |
|---------|----------|
| 1. よくする | 2. たまにする |
| 3. しない | 4. その他 |

友人・知人と

- | | |
|---------|----------|
| 1. よくする | 2. たまにする |
| 3. しない | 4. その他 |

職場の人と

- | | |
|---------|----------|
| 1. よくする | 2. たまにする |
| 3. しない | 4. その他 |

近所の人と

- | | |
|---------|----------|
| 1. よくする | 2. たまにする |
| 3. しない | 4. その他 |

【問9】 あなたは、住んでいるまちに愛着をお持ちですか。当てはまる番号を**1つ**選んでください。

1. 大いに愛着がある
2. 少しは愛着がある
3. 愛着はあまりない
4. まったく愛着はない

【問10】 あなたは、子どものころ、保護者の方と投票所に行ったことがありますか。当てはまる番号を**1つ**選んでください。

1. 行ったことがある
2. 行ったことはない
3. わからない
4. その他 ()

最後に、ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについてお尋ねします。

【問15】 あなたの年齢を教えてください。

- | | | |
|------------|--------|--------|
| 1. 18歳・19歳 | 2. 20代 | 3. 30代 |
| 4. 40代 | 5. 50代 | 6. 60代 |
| 7. 70歳以上 | | |

【問16】 あなたの最寄りの投票所※はどちらですか。(例：泉小学校など)

※期日前投票所ではなく、投票所入場整理券（ハガキ）でお知らせしている投票所

[]

【問17】 日頃から参加している活動などはありますか。当てはまる番号を**すべて**選んでください。

1. 政党や政治家の後援会活動
2. 町会等の地域活動
3. 婦人会・青年団・消防団・老人クラブの活動
4. P T Aの活動
5. 農協・漁協その他の農林漁業団体の活動
6. 労働組合の活動
7. 商工業関係の経済団体の活動
8. 宗教関係の活動
9. スポーツ・同好会・趣味のグループの活動
10. ボランティア活動
11. 市民運動・消費者運動
12. N P O・地域づくり団体の活動
13. その他（)
14. いずれにも参加していない

質問は以上です。お忙しい中、お時間をとってお答えいただきまして、本当にありがとうございました。

大変恐縮ですが、返信用の封筒に入れてポストに投函していただきますよう、よろしくお願い申し上げます(ボールペンは返送いただかなくて結構です)。

政治・選挙に関するアンケート調査報告書
令和6(2024)年3月発行

発行 金沢市選挙管理委員会
〒920-8577 金沢市広坂 1-1-1
TEL:(076)220-2077

編集 金沢大学法学類投票行動論研究室
〒920-1192 金沢市角間町
TEL:(076)264-5398

印刷所 田中昭文堂印刷株式会社
〒920-0377 金沢市打木町東 1448 番地
TEL:(076)269-7788